（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平良勝明	所　属	教育学部学部　英語教育学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	英国や米国の最新記事や文学作品をホームページやビデオ等を介して教材として使用し、学生の英語圏への文化的理解を深めるとともに言語学習意欲も最大限刺激する教育を目指す。既卒性や在学生と小まめに連絡を取り学生の教育並びに生活・進路指導に貢献する。	0.40	最新のニュースや記事を逐次配信しているインターネットサイトやイギリスのテレビ番組その他のメディアコンテンツを利用して学生の英語圏への文化的理解の助長に努めた結果、学生の学習意欲や知識習得の向上に貢献することができた。既卒性や在学生と小まめに連絡を取り学生の教育並びに生活・進路指導に貢献することができた。
研究	0.35	Virginia Woolfの作品における断片的かつ融合的な意識世界の展開に関する論文を執筆する。	0.35	Virginia Woolfの前衛的で流動的な意識世界を研究・分析し論文に纏めることができた。
社会貢献	0.20	ホームページを利用して英語の世界（言語ならびに文化）に親しみ、そして浸れるインターフェイスの構築ならびに充実を図る。地域に関わる論文の翻訳を通してローカルな文化とグローバルな文化の接点の構築、開拓に貢献する。中学校免許更新講習を通して地域の教育に貢献する。	0.20	ホームページ、そしてマルチメディアコンテンツを利用した英語の世界そしてその文化に親しむことが可能なインターフェイスの整備・充実に取り組むことができた。地域に関わる論文の翻訳を通してローカルな文化とグローバルな文化の接点の構築、開拓に貢献することができた。中学校免許更新講習を通して地域の教育に貢献することができた。
管理運営	0.05	学生生活委員として学生の学業支援、厚生に貢献する。	0.05	学生生活委員として学生の学業支援、厚生に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	大城　賢	所　属	教育学部　英語教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部：TOEIC演習、英語科教育法及び外国語活動等の講義においてはアクティブラーニングの手法を用いて学生主体の講義を行う。卒業論文の指導においては学生２人へ適切な指導を行う。英語教育専修4年次学生の教職実践研究・実践演習を卒業後の進路と絡めて適切に行う。大学院：2年次の学生に対して適切な論文指導を行い大学院を修了させる。	0.30	①学部の講義においてはアクティブラーニングの手法を用いて学生主体の講義を行った。②卒論担当学生２人が卒業論文を仕上げた。③教職実践演習ではアジアの英語教育の理解を深めるため学生を引率して台北（台湾）の小学校を訪問し授業参観や現地の教員との意見交換などを行った。④担当する学生が修士論文を仕上げた。学生は沖縄英語教育学会でも研究発表を行い高い評価を受けた。
研究	0.20	東矢教授（地域国際創造学部）が代表となっている科研費（複線経路等至性アプローチによる英語での授業へのプロセス探求）の研究分担者として研究論文を仕上げる。小学校外国語に関する論文を2本執筆する。	0.20	①科研費の研究があまり進まなかった。そのため，次年度も引き続き研究を継続することとなった。②論文は1本しか執筆できなかった。しかし，『最新英語科教育法』（研究社，2019）を共著で出版することができた。
社会貢献	0.20	小学校の外国語活動及び中学校の英語指導に関するセミナーや講演活動を通じて地域への貢献を行う。沖縄県小中高大連携委員会委員，浦添市英語教育推進委員会委員長として責任を果たす。島尻教育研究所外部指導講師として研究員の指導を行う。	0.20	①講演会やセミナーは県内外で20回行った。②アドバイザリーでの派遣は13回であった。③島尻教育研究所外部講師を前期（1人），後期（1人）担当した。④浦添市英語教育推進委員長として責任を果たした。
管理運営	0.30	副学部長として学部長を支える。研究推進委員長として附属学校との共同研究及び連携地域等との共同研究を進める。学生生活委員長として責任を果たす。	0.30	①共同研究推進委員長として附属学校との共同研究及び地域連携事業に取り組んだ。活動が学部等の教員には知らされていないのではないかという前年度の反省を踏まえ共同研究推進委員会通信を発行して活動の周知に努めた。通信は22号まで発行することができた。②学生生活委員長して責任を果たした。③学部長を十分に支えるには力不足だった。申し訳なかったと反省している。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	小林　正臣		所　属	教育学部　英語教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	①教育学部指定および英語教育専修指定の授業における英語力向上に努める。 ②上記以外の学部の授業における総合的向上に努める。 ③大学院において校種を超えた英語教育に努める。	0.45	①「大学英語」（教育学部指定クラス）などの共通教育科目では、英語に対する苦手意識を軽減するために副教材等を導入した。今後も継続して英語力の向上に向けての努力と工夫を行いたい。 ②「英米文学特殊講義I」においては、英米文学だけでなく英語教員として有用となる「英語文学」として教科書に限定されない作品を提示するなどの工夫をした。今後も継続していきたい。 ③「発問」によるアクティブ・ラーニングを追求し、教授法の可能性を拡大できた。
研究	0.40	①科研費による研究成果を示すために学会誌に投稿する。 ②科研費以外による研究でも充実化を図る。	0.40	①予定した年間計画を概ね実施できた。その成果として、海外および国内学会の学会誌に研究論文が掲載された。 ②上記の論文で得た知見を拡大するための足掛かりとして、新たなテーマに基づく論文が全国学会の会誌に掲載された。
社会貢献	0.05	①学外からの依頼で幼稚園免許取得希望者への英語教育を定期的に行う。	0.05	①学内では教えることが稀有である幼稚園免許取得希望者に向けた英語教育は、新たな経験を積み、知見を広めることができた。今後も継続して行うつもりである。
管理運営	0.10	①教育実習委員としての業務全般を遂行する。 ②委員会委員（委員会名は非公開）の業務全般を遂行する。	0.10	①全般的な仕務を行うとともに、介護等体験部会の部会長として全ての講義に積極的に関わり、車椅子実習も外部講師および学務係等と連携して行うことができた。 ②作成から点検に至る全業務に積極的に関わり、作業を完遂することができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	深澤　真	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	【教育】 ・アクティブラーニングを積極的に活用し、プレゼンテーションや少人数グループでのディスカッションなどを取り入れた授業を実施する。 ・ICTの活用を進め、WebClass等を使用して授業の効率化を図るとともに、オンライン教材を活用して学生の自律的学習を促す。 ・アンケートを1学期につき2回実施することにより，授業改善に役立てる。 【学生支援】 ・1年次担当教員として，面談を各学期1回ずつ実施し（前期は、個人面談を含めて2回），1年生の大学生活や大学での学習の支援を行う。	0.40	【教育】 ・大学英語、基礎演習、英語科教育法B,英語評価法演習などの授業で、プレゼンテーションやデモンストレーションを行い、少人数グループでの意見交換を通して学生同士で主体的に考え、理解を深める授業を実施した。 ・WebClass等を使用して授業の効率化を図るとともに、ALC Netacademyなどのオンライン教材を活用して大学外での自律的学習も支援した。 ・アンケートを各学期2回（中間と学期末に）実施し，学生の授業に対する意識や理解度、学習意欲を把握し授業改善につとめた。 【学生支援】 ・1年次担当教員として，前期は個人面談を含めて2回、後期は全体のミーティングを2回行い、話し合いを通して大学生活や大学での学習の支援を行った。
研究	0.30	・科研の応募を行う。 ・学会等での研究発表を行う（2回程度）。 ・学会誌、紀要等への論文の投稿を行う（2本程度）。	0.20	・九州英語教育学会宮崎研究大会に参加し、「日本における大学英語 入試問題は変わったか」についての研究発表を行った。 ・深澤真. (2019).「『聞く技能』＋αを測るリスニングテスト」.『英語教育』. Vol. 68, 6, 26-27. ・深澤真. (2020).「新学習指導要領で求められる評価とは？」.『英語教育』. In press. （2月中発行予定）
社会貢献	0.10	・研究分野についての識見を社会への還元するため、教員免許状更新講習及び、小学校教員対象の中学校免許状認定講習を行う。 ・アドバイザリースタッフとして、依頼に応じて講演等を実施し、地域の要請に応える。 ・日本言語テスト学会事務局次長として学会の円滑な運営に寄与する。	0.20	・島尻地区研究会、「英語で考える力の育成と評価」、講師、島尻教育事務所、2019.6/17 ・中学校免許状認定講習 、「英語科教育法Ⅱ」、 講師、琉球大学. 2019.7.29 ・糸満市教科別研修、「新学習指導要領に向けた コミュニケーション活動」、講師、糸満市立潮平中学校、2019.8/1（アドバイザリースタッフ事業） ・教員免許状更新講習 、「英語テスティング入門ーよりよい定期テストへの処方箋ー」、講師、琉球大学. 2019.8.16 ・英語指導法スキルアップセミナー in 那覇 「新学習指導要領に向けた スピーキング活動と評価 ー「やり取り」に焦点を当ててー」、講師、メルキュールホテル沖縄那覇、2019.8.19 ・南城市「中学教育の日」英語部会、「今後の中学校英語科に求められる指導と評価の視点」、講師、南城市立玉城中学校、2019.9.5（アドバイザリースタッフ事業） ・九州地区英語教育研究大会沖縄大会、指導助言者、那覇高校、2019.10.19 ・宜野湾市ストーリーコンテスト，審査委員長，宜野湾市民会館. 2019.10.31 ・体験琉球大学！『英語の「科学的」な 教え方・学び方 』、講師、琉球大学、2019.11.28 ・大阪府WWLコンソーシアム構築支援事業、「英語科教育法」、講師、2020.3.21（予定） ・日本言語テスト学会事務局次長として学会の円滑な運営に務めた。
管理運営	0.20	・教務委員会委員として、より良いカリキュラムの編成等に務める。 ・FD委員会委員として，全学の英語統一試験の実施運営にあたる。	0.20	・教務委員会委員として、令和2年度時間割編成やシラバスレビューなどを行なった。 ・FD委員会委員として，8月と2月の全学英語統一試験の実施運営をおこなった。 ・附属図書館運営委員会委員、および附属図書館学術情報基盤資料選定委員会委員として、主に2021年度以降のデータベースの検討を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	森　まゆみ	所　属	教育学部　音楽科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	ピアノ実技習得は元来、徒弟の関係による口伝の教授が伝統的であるが、アクティブ・ラーニングによるグループ活動により、U.R.G.C.C.の目標をすべて達成できる授業を行っている。画期的な授業形態である為、さらなる改善を行う。	0.20	昨年度を省みて、アクティヴラーニングによるピアノ実技習得について、自学自習が曖昧にならにように、毎回の授業で作品分析を教員に提出させるようにし、毎学期の初めに目標、終わりに振り返りと改善点をレポートに纏めてもらった。アンケートも行い、学生主体であることを常に声掛けすることにより、学生自身の積極的な取り組みが全員にみられるようになった。学習相談も行ない、その結果、高校までのピアノレッスン形態との違いに理解を深めてもらう事が出来た。学生の変化をケーススタディとして紀要に報告書をまとめることができた。
研究	0.30	１２月１５日東京に日本スペインピアノ音楽学会にて「マヌエル・ブランカフォルト」の作品の演奏発表を行う。３月７日OISTにて「ピアノリサイタル」を行い、ショパンとアルベニスの作品を発表する。	0.30	１２月１５日日本スペインピアノ音楽学会でブランカフォルトの研究発表を行った。当初の予定はこれだけであったが、１２月１３日に別の内容として、ブランカフォルトとF.モンポウの相違点に着目した研究発表（１３日と異なる作品による）を日本スペインピアノ音楽学会の例会で発表することができた。３月７日のOISTの演奏発表は予定通り行う。
社会貢献	0.30	スペイン政府公認沖縄スペイン協会を発足後3年目に入ったが、今までは日本人だけのコミュニティであった。これをスペイン人と日本人のための協会にするため会則の改定を行い、並行してスペイン人スタッフを探し、来年沖縄から自分が引き上げた後も会が継続するための組織づくりをする。「スペインピアノ作品を弾く会」、およびスペイン国立の教育機関「セルバンテス文化センター東京」の依頼による「スペイン音楽会」の企画と実践を行い、12月にはスペインギターコンクールの審査員を行い、スペイン音楽の発展に力を尽くす。	0.30	スペイン政府公認沖縄スペイン協会は、当初、自分の退職による引っ越し後の後継ぎが見つからず難航した。ボランティアでの会の運営であるが、会の意義を多くの人に伝え、その結果、沖縄在住のスペイン人数人から理解を得ることができた。沖縄にはスペイン人社会というものはまだできておらず、スペイン人が孤立していることが分かり、沖縄スペイン協会の役割を新たに見つめなおし、会則の練り直し、スペイン語での会則作りをし、スペイン文化の振興のみならず、スペイン人への精神的支援を行いその他の外国人を含め国際親善を行うべく、共同作業による仲間づくりの場を広げる会に改善した。私は１２月に会長を退任したが、次期会長はスペイン人が既に就任し、２０２０年度のイベント企画も行う事ができた。
管理運営	0.20	委員会3つ、音楽科教室書記を担当する。	0.20	委員会を3つ担当した。音楽科会議では書記として毎週の議事録をBuffalonasを利用して、皆で閲覧することができるWeb上にアップすることができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	服部　洋一	所　属	教育学部　音楽教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①コメント・カード等によって学生からの積極的な意見聴取に努め、学生より得られた感想・意見を考慮し、授業の改善(設備の充実も含めて)に努める。②オフィス・アワーに関しては学生からの要望がある時にその都度こまめに設定し、学習相談に大いに役立てることとする。③自己の専門分野における研究もしくは学際的分野における経験によって得られた事柄を実際の授業においても積極的に取り入れる。④外部専門家を委託非常勤TTとして登用し、意見交換・協働作業・助言をとおして、互いの教育能力の資質向上に努め,FDとしても活用する。⑤バイリンガル授業(前期2コマ)や、公開授業を継続し、国際交流・地域貢献に務め、学習面・技術習得において困難に感じていることはないかを常にチェックし、彼らの歌唱, または楽器(ギター)学習の便宜を図る。⑦自己の所属する専修の学生への教育指導ばかりでなく、心理臨床科学コースの協力教員として学生の教育、フィールド実習指導、論文指導に協力する。	0.30	①コメントカードに記載された学生からの感想要望に沿いつつ、授業内容の工夫と改善につとめた。②今年度は、かなりの数の学生から、修学問題、将来への不安、職業選択等について相談が多く、学生とアポを取りつつ、一人一人の学生のカウンセリングとアドヴァイスを行った。③特にミュージカル指導に関しては、学際的経験から得られた知識と指導法を実際の授業において積極的に活用した。④後期の担当授業「子ども文化とコミュニケーション」では委嘱非常勤5名とともにTTを組み、意見交換、協働作業等を通して、互いの教育能力のレベルアップに活用することができた。⑤左記のバイリンガル授業においては、海外からの留学生と日本人学生との知的交流をコーディネートし、特に留学生のために学習機材等に関して便宜を図った。⑦心理臨床科学コースの教員との意見交換、協同授業を通して常にFD経験を持つことができた。
研究	0.50	①年度内最低1回の学会誌もしくは高等教育機関の紀要等への投稿。②年度内最低1回以上の研究発表(リサイタルまたはジョイントコンサート)を外部ホールにおいて行う。③自らの専門分野の研究（研究の成果を応用する教育活動も含む）の意義を外部に対して発信し、理解を得るとともに外部資金獲得に積極的に行動する。④本学国際地域創造学部国際言語文化学科2年次の英語劇ミュージカル指導をとおして国際言語学科所属教員と共同研究(分担指導作業)をおこなう。⑤毎年行っている「琉大ミュージカル」の授業の成果発表（8月）、音楽科の成果発表としての「音楽科発表会」（2月）において指導運営に携わる。⑥附属学校との共同研究を積極的に推進する。⑦産学もしくは産官学協働連携プロジェクトへの参画養成のある場合には, 自己の専門知識と技術を発揮しつつ、これに積極的に取り組む。	0.50	①教育学部紀要に論文を寄稿した（2020年４月発刊予定）。②東京においてサロン・コンサート、沖縄においてレクチャーコンサートを行った。③隔週で東京芸術大学、東京音楽大学及び大学院にて、また毎月一回、二期会スペイン音楽研究会において、自己の研究に基づいてスペイン歌曲の演奏法と演奏解釈法について指導を行った。学習成果発表としてのスペイン歌曲研究発表会を両大学において行った。④英語劇の指導を通して他学部教員とも協同作業・指導をおこなっている（外部ホールでの発表公演は２０２０年３月8日の予定）⑤琉大ミュージカル、音楽科発表会の企画・運営・指導に携わった。⑥特に附属小学校合唱祭のための、各学級担任への指揮法指導を行った。⑦創作楽器「琉球かれん」の癒し効果についての研究を産学一体プロジェクトを現在も推進中である。
社会貢献	0.10	①コンクールの審査員としての指導助言を通して、地域学校における音楽教育学発展のために貢献する。必要あらば外の音楽文化振興団体の主催する審議会、情報交換会に参画する。②専門分野における資料収集のため学外(海外を含む)への研究調査を積極的に行う。③小・中・高等学校からの依頼に応じて、専門分野の技術・理念を分かち合うワークショップ・講演会等を行う。④地域(海外を含む)における生涯学習的音楽活動に対し歌唱法・演奏法指導にも携わる。⑤国際貢献に関しては④に準ずる。⑥地域貢献に関しては③に準ずる。⑦協力所属専修(心理臨床科学)に関わるテーマに関して学外者・産業関係者等より依頼があれば、カウンセリング等を行う。⑧本務に圧迫を与えない限りにおいて、兼任先(東京藝術大学、東京音楽大学大学院、等)における教育活動を積極的に支援し、研究発表活動などの企画も行う。また他の教育機関からの指導要請にも時間の許す限り対応する。⑨二期会、東京室内歌劇場などプロフェッショナル・オペラ・プロデュース団体に所属する歌手たちの指導、音楽会の監修を行う。	0.10	①NHK合唱コンクール沖縄大会の審査員を務め, 中学校の部では、審査員を代表して講評を述べ、NHK沖縄からTV放映された。②台湾における青年合唱活動の実態調査や、資料収集を行った。③地域小学校の合唱技術の向上のために講師として依頼され, 指導にあたった。④台湾や福岡において大学卒の青年やシニアクラスの声楽指導を行った。⑤国際貢献（④参照）を行った。⑥地域貢献（③参照）⑦上述のように「琉球かれん」に関する産学一体共同研究に参画している。⑧「研究」の③参照
管理運営	0.07	①全学的委員会及び学部内の委員（学生生活委員）としての活動などを、責任を持って役職を遂行する。可能な限り会議に出席し、内容を所属専修に伝達報告し、協議事項を学科会議に提出し、回答を委員会へ持ち帰るよう責務を遂行する。②大学院教員組織(音楽教育専修）上の務めを果たし、オープンキャンパスでの務めを果たす。音楽棟の安全・資産管理、予算の発案管理に積極的に参与する。③入試業務における役割分担を責任を持って遂行する。	0.07	全学委員会、学部内の委員会に極力出席したが、どうしても対応出来なかった時には代理を立てるか、出席した委員からの情報をしっかりと把握するようつとめた。
	0.03	①就職関係：就職、教員採用試験関連の諸行事に関して、教員、音楽科学生	0.03	①教員採用試験合格を目指す特別講座で声楽指導を行った。②西原町役場と連携して、西原町の子どもたちに対する平和教育の一環として、学生とともにボランティアで、イベント「平和の約束」での合唱演奏に関し、指揮・指導者として関わった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　　□ 学外公表に同意しない。　　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	岡田 恵美	所属	教育学部　音楽教育教室	職　名	准教授	
領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.50	1）技術科（清水研究室）と音楽科（岡田研究室）の学生・教員による地域貢献型・子ども芸術教育プロジェクトの企画・推進（8月実施予定） 2）教員養成を意識した、学外活動・スタディーツアーの企画・実施、また外部講師の招聘 3）学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるようなアクティヴ・ラーニングを導入した授業デザイン、及びWebclassの積極的活用（ピアレビュー機能等） 4）映像・音響教材やPPTを使用した視聴覚効果の高い授業プレゼンテーション 5）教員採用試験を意識した授業内容、及び教育学部4年次学生への採用試験対策に関する支援（小学校・教員採用試験受験者のための二次試験・音楽実技対策セミナーでの指導、並びに中高音楽受験者への個別指導） 6）教務委員・指導教員としての学科学生の履修状況調査や、学業面・生活面での意見聴取・サポート・環境改善	0.50	**1）地域貢献型 子ども芸術教育プロジェクトの企画・実施** 今年度は、カワイサウンド技術・音楽振興財団の研究助成が採択され、近隣の小学校高学年・中学生を対象とした地域貢献型子ども芸術教育プロジェクトとして、第1弾「即興演奏と映像作品のコラボレーション体験」を、岡田研究室の主催で2019年8月1日に琉球大学教育学部音楽棟201演奏室にて開催し、小学3年生～中学1年生6名が参加した。 第2弾「3Dプリンタを使った楽器作りと自作楽器による即興アンサンブル体験！」は、岡田研究室（音楽科）と清水研究室（技術科）の共同主催で、本学の地域連携推進課の協力を受け、2019年8月3日に教育実践センターで開催した。小学4年生～中学2年生までの13名が参加し、午前中はアフリカ楽器ムビラを製作し、午後は自作した楽器を用いて演奏活動を行なった。参加者の評価（アンケート実施）は高く、教育的視点からも、教科が連携することから生まれる学びについての新たな発見があった。また本プロジェクトの企画や指導に携わった本学の学生たちにとっては、教科の特性を活かしながら連携するという、新しい指導形態を体験することができ、そうした意味でも教育的効果があった。 **2）教員養成を意識した学外活動・スタディーツアーの企画・実施、また外部講師の招聘** 地域芸能のフィールド調査として学科学生たちと与那原町の綱引き資料館訪問や糸満市竹富の綱引きの参与観察を実施した。 教科連携プロジェクトの授業では、アフリカ音楽研究者や即興演劇の研究者を外部講師として招聘した。 **3）アクティヴ・ラーニングを導入した授業デザインやWebclassシステムの積極的活用** 初年度教育「スタートアップ音楽」では、各学生がチームを構成してテーマを決めて調査を行い、それを授業でプレゼンテーションする機会を設けた。学生は発表内容やプレゼン方法など、互いに刺激し合って工夫する場面も多く見られ、新たな環境での学生同士の協働作業や、自主性が高くかつ対話型の学びの環境を提供できた。 また、レポートの作成においては、資料検索法やテーマの絞り方、書誌・音源情報の記載の仕方について記した手引書を作成・配布し、学生のリテラシー能力向上に力を入れた。 担当科目におけるレポート提出では、琉球大学のWEBCLASSを利用し、受講者が同システム上で、他の受講者のレポートを読み、ピアレビューをするといった学生間での学び合いの学習も導入した。 **4）映像・音響教材やPPTを使用した視聴覚効果の高い授業プレゼンテーション** 担当授業では、音源資料や映像資料、パワーポイントを効果的に用いた。また、担当している講義系科目において、各授業で使用するテキスト教材およびPPT教材をすべて独自に作成し、授業後に学習内容の振り返りが容易なように、できるだけ配布資料もWEBCLASSのシステム上に用意した。 **5）教員採用試験を意識した授業内容および教採対策支援（認定試験・セミナー講師）** 専門科目においては、沖縄県の教員採用試験（中高音楽）の過去の問題傾向を分析し、一部の授業では採用試験を意識した解説も行った。 また学部主催の「認定試験」の問題作成（小学校音楽、中高音楽）を今年度も全て担当した。同じく学部主催の「教員採用試験セミナー」では、2次試験の音楽実技のセミナー講師として、2018年4月と7月に学部の受験生に対して実技指導を行なった。 **6）教務委員・指導教員としての学科学生の学業・生活面でのサポート・環境改善** 様々な学科行事において学生と教員との橋渡し役を務め、また学科学生を中心に、学業や生活状況、卒業後の希望進路の把握を行い、重要な事項については頻繁に連絡を取った。		

研究	0.30	1）科研費「基盤研究C」（研究代表者）「インド・ミャンマー国境に暮らすナガのポリフォニー民謡に関する音楽民族学研究」での研究推進・海外調査実施 2）科研費「基盤研究B」（研究分担者）「独立後のインド音楽世界を文化資源化する知の統合研究」（共同研究）での研究推進 3）学会誌・大学紀要への論文投稿 4）学会での発表、研究機関での招待講演（12月・国立民族学博物館） 5）出版に向けた取り組み（『還流するインド』） 6）アジア芸能・文化の普及・演奏活動	0.30	**<u>1） 科研費「基盤研究C」（研究代表者）の研究推進・海外調査実施</u>** 研究課題「インド・ミャンマー国境に暮らすナガのポリフォニー民謡に関する音楽民族学研究」において、本年度は2019年8月に2週間に渡り、インド北東部のナガランド州にて少数民族ナガの音楽文化やポリフォニーの歌文化に関するフィールド調査を実施した。 2020年2月には、ポリフォニー研究分野において国際的な研究所のあるジョージア（旧グルジア）にてヨーロッパで積み重ねられた研究の調査を行なった。 **<u>2） 科研費「基盤研究B」（研究分担者）の研究推進</u>** 研究課題「独立後のインド音楽世界を文化資源化する知の統合研究」において、本年度は京都で年3回の研究会に出席し、北インド古典音楽のラジオ局録音音源に関するデータベースを構築・完成させる作業を担った。次年度以降も、国際的に使用可能なデータベースの構築を目指す。 **3） <u>学会誌・大学紀要への論文投稿・掲載（7件）</u>** **● ＜国内学術雑誌での単著論文 掲載2件（査読有）＞** 日本音楽教育学会の学術誌『音楽教育学』第82巻2号に、単著論文「現代インドの若年層における北インド古典音楽学習者の増加とその要因」が掲載された。 民族芸術学会の学術誌 『arts/（民族藝術学会誌）』第36号に、単著論文「八重山諸島・黒島の正月綱引き「世引き（ユーピキ）：ローカリティの再生と歌の伝承問題を考える」が掲載予定（校正済、2020年3月発行） **● ＜大学紀要での論文 掲載2件（査読無）＞** 音楽科教育実践と教科連携に関する共著論文「教科の連携から生まれる発展的な学び：技術科教育と音楽科教育の連携による，楽器製作・アンサンブル体験講座からの考察」が、『琉球大学教育学部紀要』第94集に掲載された。 同じく、単著論文「インド北東部ナガランド州の音楽教育：なぜインド国内で最も西洋音楽教育が浸透しているのか?」が、『琉球大学教育学部紀要』第94集に掲載された。 **● ＜その他：学術雑誌等への招待論文・招待寄稿3件＞** 『社会科NAVI 』（日本文教出版）第23号に、「連載　第22回　みんぱくワールドシネマ」 を寄稿した。 『月刊みんぱく』 （国立民族学博物館）2019年11月号に、「棚田に息づくポリフォニーの歌」を寄稿した。 『サウンド』 （カワイサウンド技術・音楽振興財団）第35号に、「音楽科と他教科の教科連携プロジェクト：楽器製作とアンサンブルによる即興演奏（インプロ）体験が生み出す教育的効果」を寄稿した。 **<u>4）学会での発表（1件）、研究機関での招待講演（2件）</u>** ●日本音楽教育学会第50回大会（東京藝術大学、2019年10月20日）にて、赤嶺絵吏子氏　とともに、「教科連携による新たな芸術教育の可能性：子ども講座にみる，楽器製作からインプロ・音楽映像作品完成までのプロセス」という題目で発表を行った。 ●沖印友好協会主催の沖縄県立芸術大学国際交流事業『インド：生活に息づく芸術』（沖縄県立芸術大学，2019年11月30日）にて、「インド北東部チャケサン・ナガと民謡『Li』」という題目で講演を行った。 ●国立民族学博物館主催のみんぱくワールドシネマ（国立民族学博物館、2019年12月22日）にて、「映画『あまねき旋律』解説：インド北東部チャケサン・ナガと民謡『Li』」という題目で解説を行った。 **<u>5） 研究に関する出版準備</u>** 国立民族学博物館共同研究の出版物『環流するインド』（青弓社から出版予定）の原稿（分担執筆）を提出した。 **<u>6） アジア芸能・文化の普及・演奏活動（1件）</u>** ● 「インド・バリ・ハワイの古典芸能」、北インド古典楽器の演奏、伊江村阿良公民館（伊江島）、2019年5月26日
社会貢献	0.10	1）地域貢献型子どもプロジェクトの企画・実施 2）アジア芸能（音楽・舞踊）を通した国際文化理解の企画・演奏 3）所属学会の委員としての業務・研究会への参画 4）日本教育大学協会音楽部門及び全九州大学音楽学会での理事業務	0.10	1）地域貢献型子どもプロジェクトの企画・実施 教育の1）に記載 2）アジア芸能（音楽・舞踊）を通した国際文化理解の企画・演奏 研究の6）に記載 3）所属学会の委員としての業務 所属学会である「東洋音楽学会」の情報委員を務めた。 4）日本教育大学協会音楽部門及び全九州大学音楽学会での理事業務 所属学会である「全九州大学音楽学会」の理事を務めた。

管理運営	0.10	1）（全学）学士教育プログラム委員としての貢献 2）（全学）「琉大未来共創フォーラム（旧・琉大21世紀フォーラム）」（6月）での対談 3）（学部）教務委員としての貢献、また教員採用試験対策セミナーへの参画、認定試験問題作成等 4）（学科）教務委員としての貢献、特に2020年度へ向けた学科の教育カリキュラム改革（教員減による組織に見合った、便覧や履修カリキュラムの大幅改正） 5）入試関連業務における貢献	0.10	1）（全学）学士教育プログラム委員としての貢献 全学学士教育プログラム委員として、全学と学部の教務委員会との橋渡し役を担った。 2）（全学）「琉大未来共創フォーラム（旧・琉大21世紀フォーラム）」（6月）での対談 琉球新報ホールで2019年6月15日に開催された、琉大主催のフォーラムの対談（約25分）において、対談内容の企画及び当日のインタビュアーを務めた。 3）（学部）教務委員としての学部への貢献 教員採用試験対策セミナーへの参画、認定試験問題作成等 4）（学科）教務委員としての学科への貢献 特に2020年度へ向けた学科の教育カリキュラム改革（教員減による組織に見合った、便覧や履修カリキュラムの大幅改正）を実施した。 音楽棟の教室・練習室の使用ルールの改定や管理、使用者ミーティングの実施等を担当した。 5）入試関連業務における貢献 本年度も学部入試（推薦Ⅱ、前期入試）の問題作成を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン			□ 学外公表に同意しない。	□ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	清水　洋一	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	1)前期・後期合わせて学部13科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱを含む)、大学院4科目(課題研究ⅠA・ⅠB含む)の講義・実習等を行う。 2)卒業研究2名及び修士論文1名の指導を行う。 3)附属中学校との共同研究者として公開研究授業の支援や教材開発を行なう。 4)学内外の公開講座や出前授業に学生を参加させ実践力の向上を図る。 5)教員採用試験対策の一環として、講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説する。	0.35	1)前期・後期合わせて学部11科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱを含む)、大学院4科目(課題研究ⅠA・ⅠB含む)の講義・実習等を行った。 2)卒業研究1名及び修士論文1名の指導を行った。 3)附属中学校との共同研究者として公開研究授業の支援や教材開発を行った。 4)学内外の公開講座や出前授業に学生を参加させ実践力の向上を図った。 5)教員採用試験対策の一環として、講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説した。
研究	0.30	1)日本エネルギー環境教育学会、日本産業技術教育学会等において研究発表を行う。 2)沖縄エネルギー環境教育研究会の代表を務め研究・教育実践を行う。 3)沖縄エネルギー教育地域会議の代表を務め研究・教育実践を行う。 4)エネルギー環境教育に関する教材開発及び教育実践を行う。 5)産学官連携による琉球大学スマートハウスPJの研究分担を行う。	0.30	1)日本エネルギー環境教育学会で3件、日本産業技術教育学会全国大会で1件、九州支部大会で2件の研究発表を行った。 2)沖縄エネルギー環境教育研究会の代表を務め研究・教育実践を行った。 3)沖縄エネルギー教育地域会議の代表を務め研究・教育実践を行った。 4)エネルギー環境教育に関する教材開発を行い公開講座等で教育実践を行った。 5)産学官連携による琉球大学スマートハウスPJの研究分担を行った。
社会貢献	0.25	1)平成31年度琉球大学公開講座を実施する。 2)小・中学校等で出前授業を実施する。 3)教員免許状更新講習の講師を務める。 4)沖縄の産業まつり、県民環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行う。 5)アジェンダ21県民会議理事・副会長を務める。 6)那覇市温暖化対策協議会・会長を務める。 7)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務める。 8)沖縄地方コージェネ協議会・会長を務める。 9)沖縄ハワイクリーンエネルギー協力推進事業・海洋エネルギー技術交流等推進委員会委員を務める。 10)沖縄青少年科学作品展のアメリカンスクール作品審査会・委員長を務める。	0.30	1)平成31年度琉球大学公開講座を3件実施した。 2)小学校で4回、中学校で6回、出前授業を実施した。 3)教員免許状更新講習の講師を務めた。 4)沖縄の産業まつり、県民環境フェアには参加せず。沖縄県委託事業のｻｲｴﾝｽﾘｰﾀﾞｰ育成PJにおいて、琉球大学、南大東村、座間味村で出前講座を通して、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行った。 5)アジェンダ21県民会議理事・副会長を務めた。 6)那覇市温暖化対策協議会・会長を務めた。 7)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務めた。 8)沖縄地方コージェネ協議会・会長を務めた。 9)沖縄ハワイクリーンエネルギー協力推進事業における本委員会は廃止された。 10)沖縄青少年科学作品展のアメリカンスクール作品審査会・委員長を務めた。 11)先端技術活用によるエネルギー基盤研究事業補助金評価委員会委員、九州・沖縄地区かべ新聞コンテスト二次審査委員会委員、おきなわ環境教育プログラム改訂版作成検討委員会委員、クールチョイス4コマ漫画コンテスト審査委員会委員長、第1回省エネチャレンジカップ審査委員会委員長を務めた。
管理運営	0.05	1)エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務める。 2)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務める。 3)地域創生研究センター併任教員を務める。	0.05	1)エコロジカルキャンパス推進委員会委員を務めた。 2)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。 3)地域創生研究センター併任教員を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小野寺　清光	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	①電気電子系の専門科目の講義では、学生自らが発想し教材開発できる実習内容を積極的に取り入れていく。また、共通教育科目「情報科学演習」では小学校必修化を念頭にアンプラグド含むプログラミング指導を充実させる。 ②附属中体験授業を実施する（11月）。 ③1年次指導教員として学生の状況を細かく把握し、履修・生活指導を行う。	0.20	①電気電子系講義に関しては、学生自らが試行錯誤して所望も機能を実現する工作実習を増やした。また、共通教育科目「情報科学演習」では、アンプラグドやビジュアル言語Scratchによるプログラミングを充実した。 ②附属中3年生を対象に、「振動力発電でLEDを点滅させよう」と題し、身近な電化製品で汎用されている圧電素子の体験授業を実施した（11月）。 ③1年次指導教員として学生の状況を細かく把握し、履修・生活指導を行った。
研究	0.30	①中学生を対象にした通信の双方向性を活用するプログラミングや計測・制御に関する研究開発を行う。 ②圧電素子を用いたエネルギー変換に関する教材開発を行う。	0.20	①micro:bitを用い双方向性を活用するプログラミングや計測・制御を行う教材を開発し、附属中にて授業実践を行った（2月） ②圧電素子に関する教材開発は進展せず。
社会貢献	0.10	①教員免許状更新講習の講師として現職教員教育に貢献する（7月）。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組む。今年度沖縄開催となる支部大会の運営を行う（10月）。	0.20	①石垣島にて教員免許状更新講習「LEDを用いた実験とものづくり」を実施した（7月）。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組み、沖縄開催の支部大会を運営実施した（10月）。九州支部大会にて発表された1件の論文の査読を実施した。 ③沖縄未来社会創生シンポジウム委員（12月）、協同出版セミナ講演（1月）、Scratchx機械学習in琉球大学パネリスト（2月）を行った。
管理運営	0.40	①グローバル教育支援機構副機構長として、学生の入学から就職まで一貫した支援と育成体制の充実・改善に取り組む。 ②教室主任として、教室会議の運営、とりまとめを行う。 ③地域連携部会メンバとして地域連携に取り組む。	0.40	①グローバル教育支援機構副機構長として、学生の入学から就職まで一貫した支援と育成体制の充実・改善に取り組んだ。 ②教室主任として、教室会議の運営、とりまとめを行った。 ③地域連携部会メンバとして地域連携に取り組んだ。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	福田　英昭	所　属	教育学部　技術教育	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①「職業指導」（前期）の毎回の講義内容を公開するため，研究室のホームページを毎週更新する。②2年前から新設された前期の「ものづくり概論」の新規教材開発を行う。③研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させる。④教育実習委員及び4年次指導教員として，技術教育専修学生の履修指導等を行い，進路相談を行う。⑤「職業指導」の講義で受講学生に最新の就職関連情報を提供する。⑥文科省の教員研修留学生1名（マラウイ共和国出身，技術教育教員）の指導教員として学修指導と課題研究支援を行う。⑦技術教育同窓会の書記・会計担当者として企画・運営を行い，また，技術教育専修の卒業生の動向をチェックし，会員データベースを最新のものにする。⑧琉大ミュージカルの舞台装置の製作を支援する。	0.30	①「職業指導」（前期）の毎回の講義内容を公開するため，私の研究室のホームページを毎週更新した。②前期の「ものづくり概論」の新規教材開発（火おこし器，ペットボトルロケット等）を行った。③研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させた。④教育実習委員及び4年次指導教員として，技術教育専修学生の履修指導等を行い，進路相談を行った。⑤「職業指導」の講義でゲストティーチャー（SMBC職員，リクルートキャリア職員）を招き，受講学生に最新の就職関連情報を提供した。⑥文科省の教員研修留学生1名（マラウイ共和国出身，技術教育教員）の指導教員として学修指導と課題研究支援を行った。⑦技術教育同窓会の書記・会計担当者として会員データベースを最新のものにし，3月には清水洋一先生の退職記念講演会（最終講義）と祝賀会を企画し，卒業生に案内を出した。⑧琉大ミュージカルの舞台装置の製作を支援した。⑨一昨年より「教育実践ボランティアⅢ」を前期・後期に開講し，中城村の幼稚園，小学校2校の放課後子ども教室，子ども食堂わらびいくらぶと無料学習支援塾の教育支援活動を行った（学生31名参加）。
研究	0.30	①研究室の紹介および研究成果を紹介するため，研究室のホームページを更新する。②前村（社会），岡本（技術），仲間（美術）先生と共に8年前からスタートした紙漉き研究会を継続し，紙漉きの新しい教材・教具（簀桁など）を開発し，地域の小・中・特別支援学校で紙漉き体験学習を実施し，夏に現職教員向けの紙漉き研修会を実施する。また，紙漉きに関する論文を学部紀要等に投稿する。③東京書籍株式会社の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し，教科書の編集を行う。④日本産業技術教育学会の木材加工分科会の研究者5名と共に，小型木工機械の安全使用に関するマニュアル教材を制作する。	0.30	①研究室のホームページでは，「職業指導」関連の更新は頻繁に行ったが，研究室紹介と研究成果紹介の更新は不十分なままであった。②前村・岡本・仲間先生と共に紙漉き研究会を継続し，11月末から12月上旬の5日間に附属小3年生の保護者（約15名）向けに和紙はがき製作の全工程の体験講座を実施し，12月7日には3年生児童（全クラス）向けに紙漉き体験講座を行った。なお，学部紀要への投稿は次年度に持ち越すことになった。③東京書籍株式会社の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し，教科書の編集を行った。④日本産業技術教育学会の木材加工分科会の研究者5名とゼミ学生と共に，工作機械使用（全般）の共通マニュアルと，小型木工機械（卓上ボール盤）の安全使用に関するマニュアル教材を制作した。⑤日本産業技術教育学会第32回九州支部大会（沖縄大会）で口頭発表「プログラミング教育教材を利用した土壌水分管理の教材開発」を行った。
社会貢献	0.20	①沖縄県立芸術大学の講義「図法及び製図」（前期および後期）の非常勤講師を担当する。②教育学部が連携協定を結ぶ県市町村の教育委員会と連携して，小・中学校の校内研究会や研修会，児童生徒の学習支援等をサポートする（中城村，南部広域行政組合）。6月に島尻教育研究所で適応指導教室の児童生徒向けに工作教室を開催する。また，中城教育委員会と連携して，通年で，子どもの居場所わらびいくらぶ（子ども食堂），無料学習支援塾，放課後子ども教室の支援活動を，ボランティア学生と共に行う。③日本木材学会九州支部の理事および評議員を担当する。④日本産業技術教育学会九州支部大会（沖縄大会，10月開催）の実行委員として，企画・運営を行う。	0.20	①沖縄県立芸術大学の講義「図法及び製図」（前期・後期）の非常勤講師を担当し，本年度から新たにCAD製図のパソコン実習を導入した。②教育学部が連携協定を結ぶ県市町村の教育委員会と連携して，小・中学校の校内研究会や研修会，児童生徒の学習支援等をサポートした（中城村，南部広域行政組合）。6月に島尻教育研究所で適応指導教室の児童生徒向けに工作教室を開催し，12月には宜野湾市はごろも学習センターで適応指導教室の児童生徒向けに工作教室を開催した。また，中城教育委員会と連携して，通年で，子どもの居場所わらびいくらぶ（子ども食堂），無料学習支援塾，放課後子ども教室の支援活動を，ボランティア学生と共に行った。③日本木材学会九州支部の理事および評議員を担当した。④日本産業技術教育学会九州支部大会（沖縄大会，10月開催）の実行委員としてロードマップを作成し，企画・運営を行った。⑤日本産業技術教育学会の代議員を担当し，また，査読委員として2つの論文査読を担当した。
管理運営	0.20	①教育学部の教育実習委員会副委員長と共同研究推進委員会副委員長として，委員会の企画・運営を担当する。②全学の教員養成運営協議会委員，教職センター会議の併任教員として全学の教育課程・教育実習等の企画・調整・実施を担当する。③日本教育大学協会 九州地区技術教育部門の全国委員を担当する。④教育学部の教員選考調書作成委員として，2件の採用人事を担当する。⑤教育学部の教育実習委員として学生へ指導助言を行い，実習校の研究授業に参加する。	0.20	①教育学部の教育実習委員会副委員長と共同研究推進委員会副委員長として，委員会の企画・運営を担当した。②全学の教員養成運営協議会委員，教職教科検討委員長，教職センター会議の併任教員として全学の教育課程・教育実習等の企画・調整・実施を担当した。③日本教育大学協会 九州地区技術教育部門の全国委員を担当した。④教育学部の教員選考調書作成委員として，4件（キャリア教育，理科教育，英語教育，教職センター）の採用・昇任人事を担当した。⑤教育学部の教育実習委員として学生へ指導助言を行い，実習校の研究授業に参加した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岡本　牧子	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	講義における採用試験対策の実施、採用試験受験学生へのミーティングを用いた準備管理	0.30	R1地域志向トライアル経費を獲得し、学部学生と現場教員と合同ワークキャンプをOISTシーサイドで行った(技術科教育法B)。教員採用試験過去問題解説(技術科教育法B)、一次試験合格者への面接対策(4年次、採用決定)、採用試験受験希望学生への小論文指導(3年次)、オープンキャンパスを用いた八重山商工とWeb中継による水上ロボコン実施(機械工作実習Ⅰ)小学校教員養成向けのものづくり概論について教材や講義の内容を技術科教員共著で紀要に投稿した(小学校ものづくり概論)。
研究	0.35	科研テーマ「学校現場におけるアオガンピ栽培の教材化」最終年度におけるまとめ。プログラミング分野と連携した教材の開発及び公開、学外との連携による教育モデルの構築等	0.35	産業技術教育学会で科研テーマアオガンピ栽培を題材とした計測制御教材の開発についての成果発表。日本科学教育学会で中学校理科光学分野の教材開発について成果発表(シュリーレン光学系)。学内のオーガナイザー養成支援制度に採択され、小学校から大学までの情報系教育の連携について講演会を開催。工学部との共同研究でスマートスピーカーを用いたプログラミング教材開発についての成果発表(情報教育学会)。
社会貢献	0.25	教員免許状更新講習や公開講座を用いた、プログラミングやエネルギー教育分野の講義実施	0.30	昨年度の地域協働プロジェクト推進事業が継続プロジェクトとして採択、合同研修や校内研実施など小野寺先生や新垣先生と合同で行った(ITワークショップを通じた産学連携教育モデルの構築)。辺土名小校内研でプログラミング教育について講師担当。石垣でプログラミング教育について免許更新講習を実施、公開講座を活用したエネルギー新聞づくり開講、青少年科学作品展科学教室出展、青少年科学作品展アメリカンスクール部門審査委員、放課後クラブ支援活動における教材提供と授業実施(南風原、糸満、屋我地)、キャリアとIT教育の発表会EduTexにてパネリスト登壇、日本科学教育学会第●回研究会幹事、産業技術教育学会九州支部大会運営委員、産業技術教育学会論文査読。沖縄エネルギー環境メッセージ動画コンテスト審査委員、沖縄エネルギー環境教育セミナーにてSTEM教育とエネルギー教育について講演。
管理運営	0.10	委員会委員、学生生活委員、島嶼防災センター併任教員	0.05	全学入試点検委員、全学ダイバーシティ委員、全学島嶼防災センター併任教員、学部プログラミング教育WG、学生生活委員会での就職対策WGアンケート集計、認定試験WG,
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	新垣　学	所　属	教育学部　技術教育	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・フィジカル・コンピューティングを利用した教材を授業に取り入れる。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を育成するとともにその更新を支援する。 ・教育実習生への指導・助言を行う。 ・2年次指導教員の業務を行う。 ・就職支援のために認定試験問題の作成を行う。 ・オープンキャンパスでのデモを行う。	0.40	・共通教育の情報科学演習を前後期1組ずつ担当。 ・専門の授業を前期7後期4担当。 ・授業にて、研究で開発したmicro:bitによるコンテンツの双方向通信プログラムの作成方法を試行錯誤させた。 ・授業の課題を大学外のWebページにまとめること支援した。 ・教育実習の反省会にて学生への指導・助言を行う。 ・2年次指導教員の業務を行う。 ・附属小学校のコンピュータクラブにて補助を2回行った。 ・オープンキャンパスにおけるロボットのデモに向けた学生支援
研究	0.40	・新学習指導要領を鑑みたフィジカル・コンピューティングを利用した教材開発。 ・教員免許更新講習用教材の開発。	0.40	・新学習指導要領技術分野D情報の技術(2)ネットワークを利用した双方向のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決に向けた教材としてmicro:bitのセンサーを利用したお絵かきと、それを通信し合えるプログラムを作成した。 ・教員免許状更新講習（Micro:bitで学ぶプログラミングとおもちゃ作り）にむけて、低コスト及び安全に制作ができるロボットを開発した。
社会貢献	0.10	・プログラミング学習の普及活動を行う。 ・教員免許状更新講習を行う。	0.10	・琉球大学教育学部(地域協働プロジェクト推進事業)における小学校プログラミング教育に向けた合同キャンプにて簡易ロボットの制作およびプログラミング方法の紹介。 ・琉球大学教育学部(地域協働プロジェクト推進事業)における辺土名小学校校内研 ・教員免許状更新講習（Micro:bitで学ぶプログラミングとおもちゃ作り）を行った。 ・第20回創造アイデアロボットコンテスト県中学生大会にて審査員を務めた。 ・第37回沖縄県中学校技術・家庭科研究会(中頭大会)における指導助言者を務めた。 ・第42回沖縄青少年科学作品展のブースにて現場教員への講習を行った。
管理運営	0.10	2件の委員会委員としての業務を行う。	0.10	・発明審査委員会の委員として業務を毎月行った。 ・ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会において、与那国久部良中学校の視察および技術的アドバイスを評価書にまとめた。 ・入試委員として各種要項の校正及び高校訪問2校、オープンキャンパス等の業務を行った。 ・入試に関する業務（監督、面接官）を行った
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

令和元年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	日熊　隆則		所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	令和元年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	令和元年度　年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.35	・授業：数理の構造において、アクティブラーニングの一環としてグループ学習を取り入れる。また、数理の構造ではiPadやパソコン、DVDを利用した、ビジュアルな授業をやる。 ・プロジェクトSEED：非認知能力の重要性を多くの教育者や保護者に伝えていくこと、そして、非認知能力を育てるためにどんなことができるかを具体的に考案していく（例：クラス会議など）。			授業：数理の構造の授業において、中間テストをグループの平均点にするなどの工夫はグループの結束に役だったようで、文科系の学生であるにもかかわらず、とても集中して楽しそうに数学をやっているのが印象的でした。70点。 ・SEED：今年は、何回か行った。今回は野田俊作氏のアドラー心理学の本の読書会と議論。有用な時間であった。60点。	
研究	0.35	・土曜塾で得られた観察事実から、その解釈としての非認知能力の可能性を分析し、文章化する（例：紀要に投稿など） ・昨年度の反省をもとに、生徒たちのさらなる成績向上のための方法を確立し、実際に平均を30点アップさせることを目標とする。			・今年も、土曜塾においてルールを最初に明確にした。これは効果的で、生徒も学生も共通の了解ができて運営がやりやすかった。ただ、だんだんと緩くなってくるのが問題点として出てきた。ほとんどの生徒が継続することができないタイプで欠席が増えていく。数理パズルを導入したが生徒はこれは熱心にやることがわかる。来年はこの部分を取り入れていく予定。70点	
社会貢献	0.20	・付属小でのプログラミングの親子ワークショップ ・美原小でのパソコンクラブの授業 ・美東中学での土曜塾で、中学生に学習支援 ・那覇市教育研究所と教師のためのプログラミング教育プロジェクトを予定			・付属小で技術の岡本先生と共同でパソコンクラブの授業 ・毎週土曜日に美東中学校で土曜塾を開催	
管理運営	0.10	学生生活委員、釧路校交換留学制度WG、教員免許状更新講習、NARAEネット			・釧路校交換留学WGにおいて、釧路校の委員との合同会議を実施 ・教員免許状更新講習「初めてのプログラミング」を石垣で実施 ・教員免許状更新講習「プログラミングは算数的活動である」を実施	
	0.00					
計	1.00					
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				□　学外公表に同意しない。	□　学内外公表に同意しない。	

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	上地　完治	所　属	教育学部　教育実践学専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・学校教育専攻必修科目「子どもの世界　学びの世界」について、授業コーディネータとして初年次教育であることを意識し、子どもや教育についての文献を読んで理解し、その理解を他者と議論することでさらに考えを深める授業のあり方を工夫する。 ・専修専門科目「学校教育リフレクション」の対象年次を変更したので、3年生にあった授業内容を再構成する。	0.20	・学校教育専攻必修科目「子どもの世界　学びの世界」の授業コーディネータとして授業改善をおこなった。授業を今年度から2コマ連続（180分）でおこない、学生が子どもや教育に関する文献を読み、グループや全体で議論することで、学生の初年次教育としての性格がより充実した授業となった。 ・「学校教育リフレクション」の授業は開講時間が他の専門科目と重なっていたため今年度の履修生がゼロで不開講となった。そのため、次年度からは開設時期を後期から前期に変えて実施することとした。
研究	0.20	・科研費による共同研究の最終年度なので、道徳思想研究についての報告書をまとめる。 ・中国四国教育学会シンポジウムで報告をおこなう。 ・九州教育学会シンポジウムで報告をおこなう。 ・来年度の科研費申請・獲得をめざした研究計画を立てて予備的研究を始める。	0.20	・科研費による共同研究の最終年度で、他大学の共同研究者たちと研究の取りまとめをおこなった。 ・道徳教育研究の成果を九州教育学会シンポジウム（11/23　大分大学）、中国四国教育学会（11/30　松山大学）で発表した。
社会貢献	0.30	・アドバイザリースタッフ派遣事業で要請された小・中学校で道徳教育に関する講話・指導助言等をおこなう。 ・道徳の教科書編纂ならびに郷土資料集編纂 ・道徳の講習会・研修会における講演・指導助言 ・沖縄県明るい選挙推進協議会会長として明るい選挙推進運動に参加	0.30	・公立小・中学校でアドバイザリースタッフ派遣事業で、11件の校内研修をおこなった。 ・北部教育研修センター夏季研修で講師を務めた。 ・島尻教育研究所の夏季自主講座で講師を務めた。 ・日本文教出版主催の中学校道徳セミナー（福岡）で講師を務めた。 ・「小学校道徳　沖縄県郷土資料集」（14篇の資料）とその指導案集の監修をおこない、日本文教出版のホームページから無料で公開されている。 ・沖縄県明るい選挙推進協議会会長として、投票の呼びかけや若者選挙カレッジの活動をおこなった。
管理運営	0.30	・教職センター長としての職務 ・教職科目検討委員会委員長としての職務 ・教育学コース世話人としての職務	0.30	・教職センター長として、教職センター運営全般に努めた。 ・教職科目検討委員会委員長として、本学の教職科目の改善に努めた。 ・教育学コース世話人として、「教育内容・方法」の人事案を取りまとめた。 ・「教育内容・方法」の人事について、教員選考調書作成準備委員長として取りまとめをおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	緒方　茂樹	所　属	教育学部　学校教育攻教育実践学専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	1）教育実践学学生4名に対する卒論指導。2）同3年生6名に対するゼミ指導。今年度も昨年に引き続き、必要に応じて学校現場あるいは教育行政機関などに学生を引率をしながら経験を積ませ、実践的な内容を卒業論文等に盛り込めるよう指導する。学校教育専攻では「体験子どもの世界・学びの世界」を担当する。実践学では3年次指導教員として、履修指導やメンタルヘルスも含めた学生への丁寧な対応を行う。	0.00	十分に達成できた
研究	0.35	1）子どもの発達と音楽活動の関わりに関する評価ツールの作成に関わる研究。2）藤森法を応用した脳波分析に関する研究。以上2つを柱として研究を進めていく。その他、今年度は教職大学院の教員と協力して、新たに授業担当するシステム教育学に関わる研究にも力を入れる。	0.00	達成できた
社会貢献	0.10	1）沖縄県あるいは西原町における教育・福祉行政事業への積極的参加。2）沖縄県教育委員会、沖縄県総合教育センター、あるいは学校単位の校内研修会等講師を引き受け、県内の特別支援教育の推進に貢献する。	0.00	十分に達成できた
管理運営	0.10	附属学校に関わる業務について、必要に応じて対応する。	0.00	達成できた
	0.05	過卒生、現役学生併せて、教員採用試験に向けた進路指導等の機会を設け	0.00	達成できた
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	辻　雄二	所　属	教育学部　教育実践学専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	3.00	①学校教員の学級づくりと授業づくりにおける不断の努力の実際に触れるために，教材研究や教具づくり等を現職学校教員と共に取り組み，実際の授業参与観察を通して，「教育臨床」の到達点と課題について考えるカリキュラムを，昨年度に続き実施し，学校教員養成機能の充実を図る。 ②URGCCにもとづき，地域課題の解決に向けて積極的に提案することができ（[地域・国際性][問題解決力]），自身の考えを的確に表現し（[コミュニケーションスキル]），グループのメンバーと協調して意見を交わすこと（[社会性]）のできるスキームを確立するために，大宜味村教育委員会と協働して生涯学習活動に主体的に取り組む学生を組織し，地域の教育課題解決に向けた取組をおこなう。	3.00	①専修選択科目「教育臨床研究ⅠⅡ」において，N市のスクールコーディネータの協力を得て，学習障害（LD）とケアリングの実際について講話を依頼し，「教育臨床」の到達点と課題の理解を図ることができた。 ②大宜味村教育委員会と協働して生涯学習活動「わんぱく体験団」及び「学び舎あじまぁ」に主体的に取り組む学生を組織し，前者の活動には全6回で延べ52名，後者の活動には全3回で延べ38名の学生がそれぞれ参加し，支援活動を通して理解した教育課題の解決に向けた取組をおこなうことができた。
研究	3.00	①「沖縄における「格差と学び」をめぐる臨床教育学研究−教師教育の質的向上をめざして〔研究代表者：村上呂里：基盤研究(C)課題番号：17K04561〕の研究分担者として，最終年度である今年は「教師の学び合い、高め合う教員育成コミュニティ の構築」についてインタヴューと観察調査を進め，その結果をまとめ報告する。 ②沖縄の地域社会の中で「子育て」が如何にして行われてきたかを探るため，伝承される祭祀儀礼における子どもの役割に注目し，そこに表れる人々の心意を明らかにすべく調査研究を進める。 ③沖縄民俗学会の運営委員ならびに編集委員として，沖縄の民俗学研究の進展に寄与する。	2.00	①「沖縄における「格差と学び」をめぐる臨床教育学研究−教師教育の質的向上をめざして〔研究代表者：村上呂里：基盤研究(C)課題番号：17K04561〕の研究分担者として，最終年度である今年は「教師の学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築」についてインタヴューと観察調査を進め，その結果について報告書を作成した。 ②沖縄の地域社会における「子育て」をめぐる祭祀儀礼と，そこでの子どもの役割に注目した調査は全くできず，次年度にむけて大きな反省点となった。 ③沖縄民俗学会の運営委員ならびに編集委員として，学会誌『沖縄民俗研究』37・38号の刊行に寄与した。
社会貢献	2.00	①公立小学校の校内研修等への参加要請を通して，小学校教員の授業改善に取り組む。 ②大宜味村教育委員会主催の体験学習活動「わんぱく体験団」を支援することを通し，地域に根ざした教育活動のあり方を学生と共に探り，地域に生きる子ども理解を深めていく。 ③沖縄県公文書に係る指定管理者制度運用委員会委員として，その任務を果たす。 ④宜野湾市史編集委員会委員として，その任務を果たす。	2.00	①那覇市立古蔵小学校の校内研修への参加要請を通して，国語科における「一人学び」の方法を小学校教員と共に検討し，授業改善に取り組むことができた。 ②大宜味村教育委員会主催の体験学習活動「わんぱく体験団」（年6回）を支援し，地域に根ざした教育活動のあり方を学生と共に探ることができた。 ③沖縄県公文書に係る指定管理者制度運用委員会委員としての任務を果たした。 ④宜野湾市史編集委員会委員として『宜野湾市史第8巻資料編7　伊佐浜の土地闘争』の刊行を果たした。
管理運営	2.00	①附属学校統括として，附属学校に求められる使命が果たされるよう各関係機関と調整を図り，円滑に運営されるよう努める。 ②学校教育専攻長として滞りなく専攻の運営を進めていく。	3.00	①附属学校統括として，附属学校に求められる使命が果たされるよう各関係機関と調整を図り，円滑に運営されるよう努めた。 ②学校教育専攻長及び教育実践学専修主任として，それぞれの円滑な運営に努めた。
	0.00		0.00	
計	10.00		10.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	鄭 谷心	所　属	教育学部　教育実践学専修	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・教育実践学専修の指導教員として、教育職員免許法等の改正に伴い、新しくなった履修内容や科目名の変更を学生にわかりやすく説明し、学修生活をサポートする。 ・琉大版教職課程ポートフォリオを作成し、「教職実践研究」と「教職実践演習」の振り返りと目標設定に活かしていく。 ・学生の教職体験や教育実習をサポートし、積極的にアドバイスする。 ・ゼミ運営において学生の意見を尊重し、自立した学習・研究スタイルの確立に向けて働きかける。 ・琉大の世界力展開事業によって得られた海外の研究資料を3年生の学校教育研究や4年生の卒業研究に役立てるよう共有し、検討する。ハワイ大学とのCOIL科目の連携に向けて教育上の試験的運用を開始する。	0.30	・ 教職科目を担当する教員として、教育職員免許法等の改正に伴い、新しくなった履修内容や科目名の変更について、履修対象の学生に対して詳しく説明し、学修生活をサポートした。 ・ 年次指導教員として、教育実践学専修の2年次学生を対象にした懇談会の実施とその報告、セミ決めについての運営と周知、教職体験Ⅱと小学校フィードバックの実習指導、留学についての相談・アドバイスを実施した。特に学修困難を抱えている学生に対しては、根気強く履修指導を行い、単位取得のサポートを行った。 ・ ゼミ運営において学生の意見を尊重し、役割分担を決めた上で、自立した学習・研究スタイルを中心に据え、4人卒業研究論文の執筆と6人の卒業研究構想をサポートした。 ・ 琉大の世界力展開事業によって得られた海外の研究資料を3年生の学校教育研究や4年生の卒業研究資料として共有し、研究内容と方法について検討した。ハワイ大学とのCOIL科目の連携に向けて先方の都合を優先にして運用した。
研究	0.30	・去年まで共同研究で得られた成果を本学の紀要や学会誌などへの投稿を行う。 ・本学における2020年度の日本カリキュラム学会の開催に向けて事務局長を務める。 ・アジアの財団の研究助成金や科研費・若手研究（B）を申請し、来年からスタートする新しい研究の活動費を獲得する。 ・上海教育についての研究成果を『子どもの幸せを実現する学校教育』（共著）にま　とめ、本年度中の出版を目指す。 ・京大グループの『カリキュラム研究事典』の翻訳チームや『小学校　新指導要録　改定のポイント』の執筆に参加し、出版に向けて準備する。	0.30	・ 昨年度の共同研究で得られた成果を論文としてまとめ、2019年度琉球大学教職センター紀要に投稿した。 ・ 2020年度日本カリキュラム学会第31回沖縄大会の事務局長を務め、理事会に参加し、大会予告、HP制作、沖縄コンベンションサポート事業への申請などについて打ち合わせを行った。 ・ 来年からスタートする新しい国際比較研究の活動費を獲得するために、4年間を最長とする科学研究費助成事業・若手研究を申請した。 ・ 上海教育についての研究成果を著書『子どもの幸せを実現する学力と学校』第5章にまとめ、学事出版によって2019年7月22日に出版された。 ・『小学校新指導要録　改訂のポイント』の中国編について執筆したものが日本標準によって2019年8月7日に出版された。 ・ 京大グループの『カリキュラム研究事典』の翻訳原稿（約40頁）の3次訳を完成し、来年度の出版に向けて最終調整中。
社会貢献	0.20	・学外の学習研究会や学会大会および2019年世界教育学会東京大会への参画。 ・上海の教育の現状やハワイの教育の実態についてさらに調査を進める。 ・琉大の世界力展開事業に参加し、島嶼地域の持続的な発展に寄与する教育のあり方を開発する。	0.00	・ 2019年世界教育学会東京大会に参加し、世界の最新教育事情や研究についての情報収集を行った。 ・ 上海の教育の現状と課題についての研究成果を教職科目「教育課程・教育方法」の教材として編集し、日本との比較検討を視野に入れてさらなる調査を進める予定である。 ・ 2019年度アドバイザリースタッフ派遣事業「資質・能力を育成するためのカリキュラム作成の指導助言」をコスモストーリー保育園で行った、2019年7月5日。 ・ 2019年度アドバイザリースタッフ派遣事業「パフォーマンス評価を活かすためのワークショップ」をコスモストーリー保育園で実施した、2019年7月19日。 ・ 2019年11月15日～18日に成城学園幼稚園・初等学校・中等学校を訪問し、39主催勉強会においてパフォーマンス評価の運用についてのワークショップを実施した。 ・ 琉大の世界力展開事業の一環として、2019年8月～2020年1月の間、ハワイ大学の教員であるアンバー博士と交流を通し、担当科目を履修している院生によるハワイの学校訪問を実現させた。
管理運営	0.10	「委員会委員長」	0.00	「委員会委員」、投票管理委員長、ダイバーシティ推進本部委員、琉球大学教職科目検討委員
	0.00		0.00	
計	0.90		0.60	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	萩野　敦子	所　属	教育学部　国語教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	①担当する学部および大学院の授業において、アクティブ・ラーニングを意識しながらシラバスに掲げた目標への到達をめざす。②古典文学で卒業論文を執筆する学生の論文指導を行う。③一人でも多く教員採用試験に合格できるよう、小論文等の指導を行う。また、認定試験の作成を行う。④学生が教育現場と結びつく活動を通して、教師としての実践力を高められるよう支援する（プラクティススクールの実施や小中学校での学習支援など）。⑤教職センター併任教員としての責務を全うする。⑥2年次指導教員としての責務を全うする。	0.40	①担当する学部および大学院の授業において、アクティブ・ラーニングを取り入れながらシラバスに掲げた目標を達成できた。②古典文学で卒業論文を執筆する学生の論文指導を行った。③国語科内外の学生の小論文の個人指導を行い（のべ40回以上）、多くの合格報告を受けた。また、認定試験の作成を行った。④学生が教育現場と結びつく活動としてプラクティススクール（コックさん学校）の実施や浦添中の学習支援を手がけた。⑤2年次指導教員として個々の学生の修学相談に応ずるなどケアに務めた。⑥授業科目「教職インターンシップ」を初めて実施した。⑦「教職実践演習ガイドブック」を編集した。
研究	0.20	①科学研究費助成研究「琉球和文学の注釈研究とそれを活かした教材開発」を進める。②2020年5月刊行予定の論集『狭衣物語／変容』（仮題）に投稿する論文を執筆する。③2019年8月開催予定の狭衣物語研究会で研究発表する。④中古文学会の地区委員および西日本国語国文学会の大会委員・沖縄支部委員を務める。	0.15	①科学研究費助成研究の成果を取り入れつつ『琉球大学言語文化論叢』誌に『竹取物語』の教材開発に関する論考を執筆した（入稿済）。②2019年8月開催の狭衣物語研究会で会員が刊行した著書についての口頭報告を行った。③『日本文学』誌に依頼原稿11月号に葛綿正一氏著『平安朝文学論』の書評を掲載した。④中古文学会の地区委員および西日本国語国文学会の大会委員・沖縄支部委員を務めた。※予定していた論集『狭衣物語／変容』は編集担当者の急逝により延期となった。
社会貢献	0.05	①アドバイザリースタッフとして、要望があれば授業現場等での助言などを行う。②琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務める。	0.05	①附属中学校の共同研究者として、公開授業の指導助言等を行った。②琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務めた。
管理運営	0.40	以下の役職・委員としての責務を全うする。①教育研究評議会　評議員　②ジェンダー協働推進室　副室長　③グローバル教育支援機構会議　委員　④教員人事学長諮問委員会　委員　⑤教員懲戒委員会　委員　⑥アドミッション部門併任教員　⑦大学院委員会　委員　⑧人文社会系新研究科検討委員会　委員　⑨教育学部教務委員長（および国語科選出の教務委員）　⑩教育学部入学試験委員長（および国語科選出の入試委員）　⑪上記以外の委員　⑫上記以外の各種選考委員	0.40	以下の役職・委員を務めた。①教育研究評議会　評議員　②ジェンダー協働推進室　副室長　③グローバル教育支援機構会議　委員　④教員人事学長諮問委員会　委員　⑤教員懲戒委員会　委員　⑥アドミッション部門併任教員　⑦大学院委員会　委員　⑧人文社会系新研究科検討委員会　委員　⑨教育学部教務委員長（および国語科選出の教務委員）　⑩教育学部入学試験委員長（および国語科選出の入試委員）　⑪上記以外の委員　⑫上記以外の各種選考委員 ⑬文部科学省に提出する現況調査の教育学部分・教育学研究科（修士課程）分の作成（現在取組中）。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	高良　倉成	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	定年前の最後の授業なので，まずは概論系の「経済学概論」，「国際経済論」，「子どもと社会」をしっかり担当する。今年度末に卒論提出予定の卒論ゼミ生の指導に力を入れる。	0.25	「経済学概論」，「国際経済論」，「子どもと社会」をやり終えた。卒論ゼミ生6名の指導には苦労したが，何とか全員が卒論最終試験をクリアした。
研究	0.10	『社会学評論』（日本社会学会）へ論文を投稿する。	0.10	残念ながら，社会学評論への論文掲載を実現することはできなかった。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.65	学部長・研究科長としての職務を誠実かつ着実に遂行していく。また，次期の学部長・研究科長・評議員・統括の選出のあり方を整備し，次年度以降に混乱が発生しないような体制・環境を準備する。	0.65	学部長・研究科長としての職務を遂行したが，附属学校長の公募採用体制，人事交流協定の見直しなど解決の目処をつけることができなかった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小川　由美	所　属	教育学部学校教育専攻子ども教育開発専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	(1)講義を通しての音楽科授業に関する学生の教育実践力育成 「音楽科教育研究」において、協働的に授業デザインを行えるよう、チームでの指導案作成や模擬授業を実施し、学生相互に意見交流する場を設ける。そのことにより、協働して授業を構成していく力を身に付けられるようにする。 (2)教科教育と教科専門教員による「音楽科実践研究」の実施 今年度より、附属学校での教育実習を控えた3年次を対象に、前期に「音楽科実践研究」を実施する。この授業では、教科教育教員が中心となり指導案作成や仮説生成模擬授業を実施し、同時に教科専門教員が学生の教材研究を支援していく。これにより、教育方法と教育内容の統合を図る。また、小学校教育コースと中学校教育コースの学生を混合にしたチームを編成し、協働で授業をデザインしていくことで、発達を意識した授業構成力や協働性を身に付けられるようにする。 (3)共同研究として沖縄県内小学校教員と共に音楽科授業を構想し、その授業を附属小学校でも実施することで、音楽科学生が参観できる機会を設ける。また、現場での授業実践に先立ち、大学及び附属小学校において仮説生成模擬授業を実施し、学生の意見も取り入れながら授業の改良に取り組む。 (4)関西音楽教育実践学研究会における教員養成系大学院生の指導（月1回、大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催）	0.30	(1)講義を通しての音楽科授業に関する学生の教育実践力育成 「音楽科教育研究」において、協働的に授業デザインを行えるよう、チームでの指導案作成や模擬授業を実施し、学生相互に意見交流する場を設けることにより、協働して授業を構成していく力を身に付けられるようになった。 (2)教科教育と教科専門教員による「音楽科実践研究」の実施 今年度より、附属学校での教育実習を控えた3年次を対象に、前期に「音楽科実践研究」を実施した、教科教育教員が中心となり、指導案作成や仮説生成模擬授業を実施し、同時に教科専門教員が学生の教材研究を支援していった。これにより、教育方法と教育内容の統合を図り、学生の教材分析力や授業実践力の向上をはかった。また、小学校教育コースと中学校教育コースの学生を混合にしたチームを編成し、協働で授業をデザインしていくことで、発達を意識した授業構成力や協働性を身に付けられるようにした。 (3)「授業デザイン演習」(子ども教育開発専修専門科目）における、教育実習研究授業の再構成 今年度からの新設科目「授業デザイン演習」において、子ども教育開発専修所属の3年次学生が、9月に実施した教育実習の研究授業を持ちより、少人数のチームに分かれて教育実習での課題を基に授業の再検討を行った。子ども地域教育コースの4年次がアドバイザーとしてチームに入り、教材研究・指導案の再構成・仮説生成模擬授業をすることで、子どもの立場に立った授業デザイン力を身に付けることができた。教育実習での研究授業を再構成することで、実質的な事後指導としての機能も持つことができた。 (4)共同研究として沖縄県内小学校教員と共に音楽科授業を構想し、2つの公立小学校で実践した。さらに、その事前授業を附属小学校でも実施することで、音楽科学生が参観できる機会を設けた。また、現場での授業実践に先立ち、大学及び附属小学校において仮説生成模擬授業を実施し、学生の意見も取り入れながら授業の改良に取り組むことで、学生が子どもの実態に応じた授業の姿に触れ、自らの授業実践力を向上する機会を持った。 (4)関西音楽教育実践学研究会における教員養成系大学院生の指導（月1回、大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催）
研究	0.30	(1)学会発表（日本学校音楽教育実践学会第24回全国大会,畿央大学,8/17-8/18） (2)論文投稿（『琉球大学学部紀要』『日本教科内容学会誌』への投稿を予定） (3)共同研究（日本学校音楽教育実践学会フォーラム「音楽科の指導内容」担当チーフ） (4)日本学校音楽教育実践学会における役割、活動（常任理事、副事務局長としての学会運営および第24回全国大会運営）	0.30	(1)-1　日本学校音楽教育実践学会第24回全国大会(畿央大学,8/18)にて、「子どもが持つ音楽的感覚と共鳴する郷土の音楽―沖縄のわらべうたを用いた歌唱の実践を通して―」を口頭発表 (1)-2　日本教科内容学会第6回研究大会(京都教育大学,6/30)にて、「ぞめきの芸能における音楽科の教科内容―沖縄のカチャーシーと徳島の阿波踊りを用いた調査を通して―」をポスター発表 (2)-1　論文寄稿『学校音楽教育実践論集』第4号に「子どもが持つ音楽的感覚と共鳴する郷土の音楽―沖縄のわらべうたを用いた歌唱の実践を通して―」を寄稿(2020年3月発刊予定)。 (2)-2　論文投稿『日本教科内容学会誌』第6巻に論文投稿(審査中) (3)　日本学校音楽教育実践学会第24回大会企画であるフォーラム「音楽科の指導内容」をチーフとして運営し、沖縄県内小学校教員2名と共に、「《ふじ山》を教材とした歌唱表現活動における、子どもの指導内容の獲得」について、参会者と共に意見交流する場を企画した。 (4)　日本学校音楽教育実践学会常任理事として、第24回大会の大会企画を担当し、その他大会運営にあたった。また副事務局長としての実務にあたった。
社会貢献	0.20	(1)日本学校音楽教育実践学会機関誌『学校音楽教育研究』『学校音楽教育実践論集』編纂。『学校音楽教育実践論集』は副編集委員長として責任編集にあたる。 (2)関西音楽教育実践学研究会における研究企画への参画（月1回、大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催）。6月には、沖縄県内小学校教員2名とともに共同研究の成果を発表予定。12月には、他県の小学校及び中学校教員とともに共同研究の成果を発表予定。	0.20	(1)　日本学校音楽教育実践学会機関誌『学校音楽教育研究』第24巻『学校音楽教育実践論集』第4号の編纂(共に、2020年3月発刊予定)。 (1)-1　編集委員として、『学校音楽教育研究』の内容検討、原著論文の査読等にあたった。 (1)-2　副編集委員長として、『学校音楽教育実践論集』第4号の責任編集にあたった。 (2)　関西音楽教育実践学研究会における研究企画への参画（月1回、大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催）。 (2)-1　6月8日(土)には、沖縄県内小学校教員2名と共に、歌唱共通教材《ふじ山》を用いた仮説生成模擬授業を実施した。　(2)-2　12月7日(土)には、京都府の小学校及び大阪府の中学校教員と共に、研究会企画の一環として「実践からみる《威風堂々》の指導内容の体系図の検討」の成果を発表した。
管理運営	0.20	(1)教職課程実習委員会の教育学部代表委員 (2)学校教育専攻子ども教育開発専修3年次指導教員として学生指導にあたる (3)音楽教育教室における、履修モデル及び時間割モデルの作成。教育実習における学生への指導助言。	0.20	(1)　教職課程実習委員会の教育学部代表委員は、任期満了による交代のため、実務はほぼ無し。 (2)-1　子ども教育開発専修3年次指導教員として、履修指導、教育実習のフォロー、海外短期留学希望者への対応等を行った。 (2)-2　学校教育専攻1・3研修(1年次及び3年次合わせて101名の学生対象)の主担当として計画・実施・引率等を行った。 (3)-1　音楽教育教室における、履修モデル及び時間割モデルの作成、便覧及び課程認定科目の見直しとそれに伴う校正や変更届等の作成を担当。 (3)-2　附属小中学校の教育実習（2019年度は小中あわせて10名）における事前指導を行い、全研究授業を参観して、学生への指導助言を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	岡花　祈一郎	所　属	教育学部　学校教育専攻	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	教職に関する科目「教育原理」および、幼稚園教員養成に関する科目を中心に授業を担当している。他学部他専攻の学生も受講しており、わかりやくす、幼児教育に関する知識と理解を深めることができるような授業を展開していきたい。	0.00	教職に関する科目「教育原理」および、幼稚園教員養成に関する科目を中心に授業を担当した。受講した学生たちの授業評価も概ね良好であった。また、国家資格である保育士試験受験の学生向けの、試験対策講座を行った。 年次指導教員として障がい学生支援室の依頼があり支援を行った。前期は不調を訴える様子であったが、後期は何の問題もなく修学できた。
研究	0.30	幼児教育の評価に関する研究と保幼小接続に関する研究を継続して行い、国内外の学会での報告および論文執筆を行っていきたい。また、本年度は、幼稚園教員免許状の再課程認定が通るように、学内教員と連携しながら共同研究を含めスタートしていきたいと考えている。なお、現在、前川財団研究助成、宇流麻学術研究助成、中国四国教育学会の課題研究助成に採択されており、科研費についても関連内容で申請予定である。	0.00	幼児教育の評価に関する研究と保幼小接続に関する研究を行い、国内学会で3本、国際学会で2本の発表を行った。また、紀要論文2本と、査読付論文を1本執筆することができた。概ね順調に研究を進行できていると考えている。
社会貢献	0.20	地域連携委員として、またアドバイザリースタッフ等を通じて、沖縄県内の幼稚園、認定こども園、保育所等の研修等を行い地域の幼児教育に貢献していきたいと考えている。	0.00	地域連携委員として、また、アドバイザリースタッフとして、竹富町、宜野湾市の幼稚園での研修を行った。県内の教育委員会および子ども未来課等からの依頼で、幼稚園・保育所の研修会を計21回実施した（3月の予定も含む）。また、沖縄県保育者養成連絡協議会、うるま市子ども・子育て会議の委員および議長を務めた。
管理運営	0.20	教育実習委員として、学生の教育実習の円滑な実施に向けてコーディネートする役割を担っていきたい。特に幼稚園教育実習の実習先の確保について尽力していきたいと考えている。	0.00	教育実習委員として、学生の教育実習の円滑な実施に向けてのコーディネートを行った。幼稚園教育実習では、実習中に不慮の事故があり誠に残念な結果となった。対応やその後の学生への支援とフォローを行った。事前事後指導の面で改善を考えている。 学部運営会議から、全学の戦略的再配分の申請を幼児教育で申請し、見事採択された。幼稚園教諭免許維持に向けて大きな一歩だったと考えている。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	吉田　悦治		所　属	教育学部　学校教育専攻　子ども教育開発専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	子どもが育つ多様な現場での教育実践を通して、実践力の基礎を育てると共に、表現活動を軸にした学びの創造性について探求する演習授業に取り組む。	0.30	北谷町立図書館（北谷町）、うえのいだ&farm（那覇市）、真嘉比小学校（那覇市）でのワークショップ実践において、学びの場作りや教材開発を中心とした演習授業に取り組んだ。また、美術教育専修・子ども地域教育コース・子ども教育開発専修のゼミ指導（10名）、現職教員の修論指導（１名）に取り組んだ。教育実習（附属小・中、公立小）における指導案作成等の指導・支援に取り組んだ。
研究	0.20	子どもを含む多様な人々と地域を繋ぐ教育・文化実践の可能性を探求する。主に「場」から生まれる創造活動の実践を通して研究する。	0.20	人々と地域を繋ぎ、「地域性」「場所性」を活かした表現活動の実践研究を継続するとともに、幼児教育における「造形遊び」についての研究にも取り組み、幼稚園教諭免許の表現領域における課程認定対応のための予備的研究を行なった。
社会貢献	0.20	授業研究会での指導助言や県内における美術・造形教育に関わる支援に取り組む。	0.20	附属小学校での授業研究会において指導助言を行った。研究授業（図画工作）では、共同研究者として教材開発の段階から継続的支援を行った。また、中城村の校種間交流授業研究会においても指導助言を行なった。障害者週間ポスター審査員や障害者アートのドキュメンタリー映画のトークセッションに登壇し特別支援教育の支援にも取り組んだ。加えて、長崎大学の依頼により「初等図画工作科教育」の集中講義（受講者170名）を行なった。
管理運営	0.30	子ども教育開発専修、子ども地域教育コースに加え、美術教育専修の教室運営において、業務が円滑に行われるよう取り組む。	0.30	美術教育専修の教室主任を務め、教室運営が円滑に行われるよう取り組んだ。子ども教育開発専修、子ども地域教育コースにおいても教室運営に携わった。また、美術教育専修および学校教育専攻の入試業務のほか、入試委員会の学部広報WGに協力した。教務関係では、幼免科目の「表現ⅡA」の世話役を行なった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	島袋　純	所　属	教育学部　社会科教室	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	専門科目の授業(必修及び専門選択科目)に加え、近年、教員数の削減を補うために、オムニバス（複数教員による分担）授業でかつ学部必修科目または共通教育科目として、前期後期合わせて7科目担当することになっている。共通の授業目標を達成するチームの一員として、その授業のカリキュラム開発の会議に積極的に参加してチームでの授業づくりに貢献する。学生指導については、ゼミ生の卒論指導、及び4年次の進路指導を充実させる。	0.40	専門科目の授業(必修及び専門選択科目)に加え、専門科目でないオムニバス（複数教員による分担）授業でかつ学部必修科目または共通教育科目として、前期後期合わせて7科目担当した。オムニバス授業では共通の授業目標を達成するため、その授業づくりと進行管理のために積極的にオムニバス授業教による授業進行管理のための会議に出席した。学生指導については、ゼミ生の卒論指導、及び4年次の進路指導を充実させる。
研究	0.30	日本政治学会共通論題において討論者として登壇し討論を行う。日本平和学会の理事として理事会に参加し日本の平和学研究の向上に貢献する。外部資金獲得に向けた共同研究の準備を進める。国際人権法研究会共同代表として、共同調査を進め、報告書の国連への提出を進める。	0.30	日本政治学会共通論題において討論者として登壇し討論を行った。日本平和学会の理事として理事会に参加し日本の平和学研究の向上に貢献した。外部資金獲得に向けた共同研究の準備を進め、科研費研究の分担者として申請した。国際人権法研究会共同代表として、共同調査を進め、報告書の国連への提出を進めた。
社会貢献	0.20	沖縄県SDGs推進万国津梁会議委員長として、提言書をまとめる。沖縄産学官協働人財育成円卓会議ワーキンググループ（地域・政策人財育成分野）委員長として、答申をまとめる。沖縄県南部市町村事務組合職員研修の講師として研修を担当する。	0.20	沖縄県SDGs推進万国津梁会議委員長として提言書をまとめることに尽力した。沖縄産学官協働人財育成円卓会議ワーキンググループ（地域・政策人財育成分野）委員長として、答申をまとめることに尽力した。沖縄県南部市町村事務組合職員研修の講師として研修を担当した。那覇市の職員研修を担当した。
管理運営	0.10	学部の教務委員として学部の教務の充実に貢献する。	0.10	学部の教務委員として学部の教務の充実に貢献した。教授会で積極的に発言した。講座会議に出席し、専修における教育の協働管理に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	花木　宏直	所　属	教育学部　社会科教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	2年次指導教員として，学修と学生生活の充実に努める。3人のゼミ指導教員として，積極的な卒業研究の遂行を支援する。釧路交換留学生1人の受入教員として学修支援に努め，滞りなく帰還させる。	0.30	2年次指導教員として、とくに問題なく学習と学生生活を支援した。ゼミ指導教員として、卒業研究の指導を滞りなく行った。釧路交換留学生についても、とくに学修や学生生活に問題なく留学期間を終えた。
研究	0.30	5月に歴史地理学会にて，近代日本の新出移民資料および地方自治体の移民への対応に関する研究発表を行い，その後歴史地理学関係の学会誌への投稿をめざす。近代ブラジルの沖縄系移民の集住地域の再検討に関する研究について，8月に移民研究関係の学会誌へ投稿をめざす。	0.30	5月の歴史地理学会では予定通り近代日本の新出移民資料と地方自治体の移民管理に関する研究発表を行った後投稿し、学会誌「歴史地理学」2020年3月号に掲載見込である。ブラジルの沖縄系移民の集住地域に関する論文も、2019年11月に「移民研究」16号に掲載された。また、9月には日本カナダ学会でカナダの沖縄系移民に関する報告を行い、現在同学会の依頼論文を執筆中である。
社会貢献	0.20	八重瀬町史移民・出稼ぎ編専門部会員として，前年度のブラジルへの挨拶訪問に引き続き，本年度はブラジルおよびペルーでの海外調査が予定されている。来年度の執筆着手に向け，町史編纂に積極的に取り組む。	0.20	八重瀬町史移民・出稼ぎ編専門部会員として、2019年10月に予定通りブラジル調査を実施した。八重瀬町職員にも同行いただいて、約30人より聞き取りを実施することができた。その成果は2020年2月に八重瀬町役場で調査成果のパネル展を行い町民へ還元した。また、今後はコロナウイルスが終息した頃に、調査成果の報告会も予定している。
管理運営	0.20	教育学部の教育実習委員として，社会科教育専修の学生の教育実習の支援を確実に行う。また，同委員会の介護等体験部会長として，個々の学生の事情に配慮しながらよりよい介護等体験を実施する。全学の島嶼地域科学研究所運営委員として，研究拠点の整備に努める。	0.20	教育学部の教育実習委員として、教職体験Ⅰ・Ⅱや3・4年次の教育実習を支援した。同委員会の介護等体験部長として、2月時点では大きな問題なく介護等体験を実施できた。全学の島嶼地域科学研究所運営委員として、新たな機関紙「島嶼地域科学」創刊号の刊行の支援などを行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山城　康一	所　属	教育学部数学教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・専門科目：数学入門・代数学序論で反転授業、代数学特論でAL ・学部ゼミ：それぞれの分野への意欲の持続 ・コックさん学校で実践的な教員養成 ・共通教育科目：統計学でwebclassを利用、学生へのフィードバック	0.30	・専門科目：数学入門・代数学序論で反転授業を行った. ・院専門科目：代数学特論で学生が事前にテキストを読み込むことを前提に授業，テキストをテレビで表示することによって，板書時間を節約した. ・コックさん学校で学生とともに独自授業を開発，実践した. ・共通教育科目：統計学でwebclassを利用し，授業ノートを公開，授業内容に関する質問に回答，練習問題・過去問等をの公開，スケジュールの伝達など，学生へのフィードバックを行った.
研究	0.25	・反転授業、コックさん学校の報告 ・部分環の列に関する研究の継続 ・平田分離拡大環の諸結果の強分離拡大環への拡張 ・ある種の圏論的システムの構築	0.05	・次年度の全国算数・数学教育研究会発表に向けて，反転授業に関す報告をまとめる.
社会貢献	0.40	・沖縄数学教育会会長 ・日本算数・数学教育研究(沖縄)大会実行委員長 ・琉大はかせ塾・琉大カガク院 ・スーパーサイエンスハイスクール事業(球陽・向陽) ・コックさん学校で地域学童の教育	0.50	・沖縄数学教育会会長を務め，役員会，理事会，代表委員会，小中高合同研究会などを開催した. ・日本算数・数学教育研究(沖縄)大会実行委員長を務め，大会を実行した. ・琉大はかせ塾・琉大カガク院において基礎講義を行った．また，ハカセ塾の二段階選抜生（中二・中三）の個別指導を行った. ・スーパーサイエンスハイスクール(球陽・向陽)にて講演した．また，探究活動の指導を行った. ・コックさん学校で学生を指導し，中城南小学校・長田小学校の児童37名にアクティブラーニングを取り入れた授業を提供した.
管理運営	0.15	・全学委員会委員 ・学部入試委員	0.15	学部入試委員
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	湯澤　秀文	所　属	教育学部　学校教員養成課程	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	各講義に対する学生の質問や感想を随時取り入れ，これを授業の改善等を通じてフィードバックして行く。近年の情報や研究成果も適宜紹介する等活用し，講義の質の向上に努める。 また，ゼミや指導年次の学生に対し，進路相談，修学相談等を随時行う。	0.40	ほぼ毎回の講義において，学生からの質問や感想を，主に記述を通して聞くことができ，結果をそれ以降の講義の改善に役立てることができた。また，近年の研究の動向等も適宜活用した。その結果，これらに関する学生の感想記述は，概ね講義の趣旨に沿うものが多かった。 また，ゼミや指導年次の学生等に対し，進路相談，修学相談等を随時行った。
研究	0.35	研究テーマに関する資料・情報の収集，教材開発，授業研究，授業実践，学会参加等を通じて，算数・数学科教育及び教師教育に関する研究と実践を進める。	0.35	研究テーマに関する資料や情報の収集，学会への参加等を通して，実践や考察を進めることができた。
社会貢献	0.20	学会や，附属学校・公立学校の研究会，研修，授業研究会等における指導・助言等の要請に可能な限り応え，学校や大会の運営に協力する。	0.20	附属学校における研究会や校内研修，教育実習等での指導・助言のほか，公立学校や各種研究団体等からの研究会・研修会等についても可能な限り依頼を受け入れ，指導・助言等を行った。
管理運営	0.05	所属委員会等の活動に取り組む。	0.05	委員会等より依頼された業務に関しては責務を果たすことができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	三枝崎　剛		所　属	教育学部　数学教育専修	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.40	数学教育専修二年生の担任を担当する．大学生活の中で，特にゆとりのあるこの時期の生活の仕方について，懇談会で丁寧に説明する．講義においては，学生に主体的に考えてもらう取り組みを行う．具体的には，学生に自ら問題を作るという行為の重要性を説き，その解決へ向けた心がけを説明する．これにより受け身な態度でなく，積極的に数学に取り組む態度を身につけてもらう．共通教育科目である微分積分学入門において，書き込み式講義ノートを作成し，講義時間中に問題を解く時間を多く設ける．		0.40	数学教育専修二年生の担任を担当し，将来について考える時期であること，ゆとりある時期とはいえ，日々の学習を疎かにしないこと，社会人としての自覚ある行動に努めること，特に教職体験先での立ち振る舞いに気を付けること等を強調して説明した．幾何学の講義においては，自ら問題を作り研究発表するという試験を取り入れた．オリジナルな研究成果を多数得ることができ，学生に好評であった．共通教育科目である微分積分学入門において，書き込み式講義ノートを作成し，講義時間中に問題を解く時間を多く設けた．また2人のゼミ学生は山形大学での研究発表を行い，それに基づいて学生と共著論文を作成することになっている．理学部も含め，本学数学研究室にて，これ以上の教育を行っているところはないであろう．	
研究	0.35	現在まで続けている代数的手法を用いた離散構造の研究に加え，昨年採択された科学研究費補助金に関する研究を続ける．特に多項式不変量を用いた数学における対称性について研究を行う．また国際会議の招待講演など複数依頼を受けており，研究の普及活動にも力を入れる．		0.35	年度頭に，数年考え続けてきた問題が解決したことにより，研究の大幅な進展があった．平成31年度における論文は，査読付き国際学術誌5編，印刷中論文1編，現在投稿中論文が3編，投稿準備中の論文が6編である．更に昨年度のゼミ学生との共著論文が，琉球大学教育学部紀要第94集に掲載された．また2月に琉球大学で大規模な研究集会を開催予定である．以上のように目標以上のことを達成した．	
社会貢献	0.10	日本学術振興会の主催する「ひらめき・ときめきサイエンス」事業を行う予定である．沖縄の高校生を対象に，科学研究費補助金で得られた成果を伝える．その他，公開講座の担当2件，授業公開2件も行う．また，教員免許更新講習を3講座担当予定である．これらを通して，理数系科目，特に数学に対する関心を深めてもらう．		0.10	日本学術振興会に申請していた「ひらめき・ときめきサイエンス」は，残念ながら不採択となった．全国的に見て，数学の開催は敬遠されたようである．しかし，公開講座1件，教員免許更新講習3件担当した．これを通して総計35名程度の方へ，数学に対する関心を深めてもらう活動を行った．アンケートによると，大変好評だったようである．以上のように目標を達成した．	
管理運営	0.15	「教育実習委員」を担当する．今年度は教職体験I部会長として，一年生へ向けた教員への心がけを意識させるよう努める．各学生に教師としての自覚や心がけを持ってもらうよう，実習にはできる限り参加する．また，事後指導においては自らの教員体験をもとに，各学生それぞれに丁寧な指導を行う．その他「委員会委員」を担当する．		0.15	教育実習委員を担当した．所属する数学教育専修の全ての学生の教育実習授業を見学し，それぞれに対して，よかったところ，改善点などを詳しく説明した．またゼミ学生の4年次教育実習にも参観し，昨年度と比べて進歩した所などを説明し，努力を労った．また教職体験I部会長として，社会人として，先を読んで行動することなど，立ち振る舞いに気を付けるよう指導した．これにより，実習先の先生方より，昨年度と比べて，学生の態度が良い旨，連絡をいただいている．教職体験I報告会における学生の発表も昨年度より立派だったと感じている．	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）				☐ 学外公表に同意しない。	☐ 学内外公表に同意しない。	

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	韓　昌完	所　属	教育学部　特別支援教育学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	①教育成果評価尺度開発（科研）に関する研究成果を授業内容に取り組み、学生教育の専門性向上を図る。 ②IN-Childプロジェクトの研究成果をインクルーシブ教育指導法の授業に反映する。 ③地域の小・中学校との連携を通して、学生たちに現場体験学習の機会を提供する。 ④特別支援教育に関する独自の教材を作成し、教授する。 ⑤修士課程の指導において、学術雑誌に研究論文を投稿、掲載するように指導する。	0.20	①教育成果評価尺度開発（科研）に関する研究成果を1欄科目の特別支援教育概説の教材開発に反映し、授業した。ゼミでも資料や作成した論文を卒論指導に活用した。 ②IN-Childプロジェクトの研究成果をインクルーシブ教育指導法の教材開発に反映し、アクティブラーニング形式の授業を行った。 ③地域の小・中学校（嘉数中学校、志真志小学校、宜野湾小学校など）との連携を通して、学生たちに現場体験学習の機会を提供した。特に1年次は志真志小学校との連携によるケース会議や授業観察、個別支援を通して次元の高い体験学習ができた。 ④特別支援教育のための心理生理病理、特別支援教育概説、肢体不自由者の心理生理病理に関する独自教材を開発し、授業を行った。 ⑤修士課程の学生指導の成果として、国際学会での論文発表ができ当該学生は学長賞の受賞者として選抜された。さらに修士論文の研究によって小学校低学年のニーズのある子のための社会生活機能訓練教材が完成されて、新年度から沖縄県の小学校1か所で効果検証作業に入ることとなった。 ⑥教員採用試験の準備の指導を行い、指導学生6人が合格した（卒業生、推薦、現役合格含めて） →年度目標の130%以上の達成。
研究	0.50	①国際ジャーナルに論文1本以上掲載。 ②国内ジャーナル（紀要を含む）に論文1本以上掲載。 ③外部資金（科学研究費補助金、共同研究基金等）の獲得にChallengeする。 ④学会の研究大会に参加し、1本以上の研究発表を行う。 ⑤日本、韓国、国際学会での活動を積極的に行う。	0.50	①国際ジャーナルに単独で論文1本を掲載した。 ②全国ジャーナルに単独で論文1本、共同で1本を掲載した。 ③研究代表者として科研基盤Cを獲得した。企業との共同研究で年間1500万円の研究費を獲得した。 ④国際学会に参加し、4本の研究発表を行った。 ⑤国際学会の理事3か所、国際学会の論文査読年間20本を行った。 →年度目標の200%以上の達成。
社会貢献	0.20	①県からの研修講師等をできる限り引き受ける。 ②地域の学校に対する教育支援を積極的に行う（校内研修などの支援）。 ③他県の学校に対する支援を積極的に行う（指導助言活動）。 ④IN-Childプロジェクトに関する市民向けの公開講座を積極的に開く。 ⑤研究を通しての国際交流を積極的に行う	0.20	①免許法認定講習の講師を務めた。 ②日教組沖縄市支部、国頭支部、女性教員の会などの研修の講師を務めた。 ③地域の小中学校の校内研修の講師を務めた（アドバイザリーを含めて年間10回以上） ④千葉県、鹿児島県、山口県、富山県の教育委員会や地域団体の研修の講師を務めた（年間5回） ⑤市民を対象にする公開講座を3回行った。 ⑥韓国の保健福祉部（厚生労働省）の傘下の専門機関とのセミナーを3回行った。 →年度目標の200%以上の達成
管理運営	0.10	①専修主任を担当する。 ②研究科代表者会議の担当。 ③入試委員会の委員を担当する。	0.10	①専修主任を担当した(6年6回目）。 ②研究科代表者会議の担当。 ③入試委員会の委員。 ④教育学部が窓口になってる産学共同研究プロジェクト（IN-Child）の研究代表を務めた。 ⑤新設の特別支援教育特別課程の入試を担当し、課程主任も兼務した。 →年度目標の150%程度の達成。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小原　愛子	所　属	教育学部　特別支援教育専修	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	【学部】 1.病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する 2. 病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育では、アクティブラーニング（ディスカッション・発表・講義）を取り入れ指導案の作成・発表等を行う。 3.インクルーシブ教育指導法及びダイバーシティ教育実践研究については、テキストが市販されていないため、国内外の研究動向を踏まえ、独自の教材を開発し提供する 【大学院】 1.大学院生の授業において、研究方法に関するテキストを作成し独自の資料を提供する。	0.50	【学部】 1.病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育の3科目について、テキストを作成し独自の学習資料を提供した。 2. 病弱者教育、病弱者の心理・生理・病理、重度・重複障害者教育の3科目について。アクティブラーニング（ディスカッション・発表・講義）を取り入れ指導案の作成・発表等を行ったことに加え、現職の大学院生も加わり特別支援学校での指導案作成や実践に関して学年を超えた学び合いをすることができた。 3.インクルーシブ教育指導法及びダイバーシティ教育実践研究については、国内外の研究動向を踏まえ、独自の教材を開発し提供した。 4.4年次の指導学年として、教員採用試験の面接や小論文の指導を行い、3名を本務教員として教員採用試験の合格者を排出した。 5.卒業論文の指導学生3名を指導した。 【大学院】 1.研究方法に関するテキストを作成した。 2.修士論文の指導学生1名を指導した。また、その学生について、研究業績等が認められ今年度の学長賞にも選出された。
研究	0.00	1.国内ジャーナル（紀要含む）に論文1本以上掲載。 2.国際ジャーナルに論文1本以上掲載。 3.国内学会または国際学会で1題以上発表する。 4.外部資金（科学研究費補助金：萌芽的研究）が審査中であるため、通った場合は研究をすすめ、通らなかった場合は次年度に向けて外部資金（科学研究費補助金等）の獲得に挑戦する。	0.20	1.国内ジャーナル（全国レベル）に共著者として3本の論文が掲載され、1本が掲載確定となっている。 2.国際ジャーナルに論文は掲載されなかった 3.国際学会で1題発表した。 4.外部資金の獲得について ①科研費は不採用（A判定）となっていたが、次年度の異動を考え今年度は応募しなかった。 ②共同研究に参加し、民間企業との共同研究を推進にメンバーとして参加して、3年間で2700万円を獲得に貢献した。 5.特別支援学校の教員と教育課程の編成及びその効果に関する研究を進め、国内雑誌に1本掲載されるなど、教育・研究支援を行った。
社会貢献	0.00	1.特別支援学校に対する教育支援を積極的に行う 2.沖縄県内の公立小中学校における特別支援教育に関する教育支援を積極的に行う 3.県外の公立小中学校における特別支援教育に関する教育支援を積極的に行う	0.20	1. 大平特別支援学校の評議員を務め教育的支援を行った。 2. アドバイザリー派遣スタッフとして、宜野湾市立嘉数中学校における研修の講師を担当した。 3. 県内外における教員を対象に8回（県内6回、県外2回）の教育講演・校内研修の講師を担当した。 4. 宜野湾市立嘉数中学校、宜野湾小学校、志真志小学校においてIN-Childに関する教育支援を行った。 5.千葉県、山口県の公立小中学校において、IN-Childに対する教育支援を行った。
管理運営	0.00	1. 実習委員会委員を担当する 2. 教務委員会委員を担当する	0.10	1. 実習委員会の特別支援教育部会長を担当した（前期）。後期は、下條先生赴任に伴い、実習委員会のアドバイザーとして参加した。 2.教務委員を担当した。 3. 後期から学生生活委員会の釧路校WG委員を担当した。 4. はごろもネット推進委員会委員を担当した。 5.前期入試の小論文問題作成委員を担当した。
	0.00		0.00	
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	スプリー　ティトゥス	所　属	教育学部美術教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・共通教育科目「美術の世界」の授業改善を行う ・「デザイン基礎」、「デザインA/B/C/D」、「図法および製図」、「スタートアップ美術」、「小専美術」、「デザイン特論Ⅰ」、「総合表現特論B」という授業改善。 ・「生活科教育概論」の美術担当として受講生に教育現場での感覚の意味と意義を明確化する。 ・２年次指導教員として、年次別懇談会等において進路指導を行う。 ・認定試験問題作成と実施にに参画する。	0.35	・共通教育科目「美術の世界」の授業を改善し、受講生のより積極的な関わりが実施できた。 ・前後期ともに、登録者のいない授業を除き、予定通り授業を実施し、前年より受講生の積極的な関わりが実施できた。 ・「生活科教育概論01組」の美術担当に参画し、感覚について受講生の理解度が深まることを確認できた。 ・２年次指導教員として、学生が就職活動（特に教員採用試験）に積極的に取り組むよう、情報提供等を行った。 ・認定試験問題のデザイン分野の作成を担当した。
研究	0.30	・３１年９月ドイツとフランスでアートとまちづくりに関した海外研修を行う。 ・都市再生と住環境についての研究。 ・沖縄県内アートとまちづくりの研究。 ・美術教育の中でマルチメディアやコンピューターによるの表現の可能性の実践研究。 ・オルタナティヴ教育につての研究	0.35	・６月ドイツで行っていた「Eutopia」という芸術とまちづくりプロジェクトに招待され、参加した。 ・８月東京造形大学と共同主催で沖縄県糸満市でワークショップや発表会を実施した。 ・９月ドイツ、イタリア、イギリスでアートとまちづくりに関した海外研修を行った。 ・１２月向島国際デザインワークショップの展示会とシンポジウムに招待され、参加した。 ・都市再生、沖縄県内アートとまちづくり、オルタナティヴ教育の調査をし、資料をまとめた。 ・「マルチメディア・アート・スタディルーム」を拠点に、様々な表現活動を通して実践研究を行った。
社会貢献	0.20	・日本とドイツの国際交流活動を行う。 ・３１年１２月沖縄県内外アートとまちづくりプロジェクトを実施する。 ・おきなわオルタナティヴスクールというNPO団体の支援やボランティア活動。 ・不登校児のサポート含むオルタナティヴ教育の実践活動。 ・子ども自然体験キャンプ、子どもの表現活動の支援などのボランティア活動。	0.15	・日本とドイツの国際交流活動の様々な企画を行った。 ・２月宜野座村漢那の小学生向けの芸術ワークショップを企画し、実践した。 ・８月糸満市米須でアートとまちづくりの交流プロジェクトを実施した。 ・子ども自然体験や表現活動の支援などのボランティア活動を行った。
管理運営	0.15	・教育実習委員会の学部内委員会活動を担当する。 ・２年次指導教員としての業務を行う。 ・入試に関する業務を行う。	0.15	・教育実習委員会などの委員会活動を担当した。 ・教育実習委員としての各施設や実習先との連絡、実習生の引率、様々な体験のための学生指導といった業務を行った。 ・美術教育専攻の入試製作委員長として業務を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	仲間　伸恵	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	引き続き各授業内容の改善に取組む。 特に今年度前期から新たに開講する「織染D」については、卒業研究を見据えた演習科目として、各学生の要望に即しそれぞれの可能性を広げられる授業内容の構築に務める。	0.40	・各授業内容の改善に取り組んだ。 ・「織染D」においては、学生がこれまでよりも早い時期から各々の研究テーマを模索し始めるとともに、安心して試行錯誤できる環境づくりに務めた。 ・「小専美術」では後期の担当時間が増えたことに伴い、新たに「色」をテーマに3コマの授業を構築した。小学校の教師を目指す学生たちの、図工・美術に対する苦手意識をなくしたいと考えているが、授業後のワークシートで「ずっとワクワクしていた」というコメントがあるなど、手応えを感じることができた。
研究	0.40	・引き続き「紙漉きを通して自然と文化を学ぶ体験学習」の研究に取組む。 ・地域の織物についての研究に取り組む。	0.40	・引き続き、「紙漉きを通して自然と文化を学ぶ体験学習」の研究実践に取組んだ。6年目となる福嶺小学校では、授業参観日に全校生徒で校庭の植物を使って草木染体験を行うなど、活動の幅がさらに広がった。学習発表会や宮古苧麻績み保存会の展示会で体験学習について発表するなど、現場の先生方の指導で子どもたちの活動が広がりをみせ、身近な自然と地域の文化に対する学びの深まりを感じることができた。 ・台湾で行われた第4回東アジア日本研究者協議会に、県立芸大の久貝典子氏を研究代表者とするパネル発表「琉球・沖縄の染織物の諸相について」の発表者として参加した。 ・九州の繊維芸術表現者のグループITOBAの会員となり、「ITOBA展vol.2」に参加した。 ・アジアファイバーアート展マレーシア大会に参加し、日本・韓国・マレーシアの作家たちとの交流で、アジアのファイバーアートの現在を体感し多くの刺激を受けた。 ・附属中学校の美術科：酒井織恵先生の共同研究者を務めた。 ・日本女子大学家政学部学術交流シンポジウム「被服学の担う新しい役割～自然布の温故知新～」の講演者・パネリストを務める。
社会貢献	0.10	・「工芸品原材料確保事業芭蕉部会」委員を務める ・要請に応えて、地域のものづくり活動に協力する。	0.10	・県商工労働部ものづくり振興課「平成31年度工芸品原材料確保事業」委員を務めた。 ・宮古島市総合博物館子ども博物館講座の講師を務めた。 ・大宜見村教育委員会生涯学習講座「村の特産物を活かした紙漉き」研修講師を務めた。 ・沖縄染織研究会役員を務めた。
管理運営	0.10	委員会委員として職務を遂行する。	0.10	学部入試委員、委員会委員、附属図書館研究開発室員として職務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	遠藤洋志	所　属	教育学部　保健体育講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	共通教育科目を含む運動指導が伴う科目では、怪我や事故が発生しないように予見される危険性を十分に想定し安全第一ですすめる。共通教育の健康運動系科目については科目設定の見直しを実施し、さらに退職教員が担当していた科目を引き継ぐため教材研究を積極的に行い、次年度にクラス担当者となる。	0.50	プールや暑熱環境での運動指導が多いため、とにかく事故が発生しないように留意し、結果的に安全が確保され無事に終了することができた。健康運動系科目の見直しは予定どおり実施し今年度予算を節約して一部教材も準備した。新たな科目指導に向けた教材研究も最大限に実施し次年度の授業実施に目処がついた。今年度は卒論生１名のほか修了予定の大学院ゼミ生が3名おり研究指導にかなりの活力を割いた。
研究	0.30	現在進行中の科学研究費補助金（分担2件）に関連する活動（国際連携、海外調査、国内調査）を継続する。投稿論文は国際誌1件、国内誌1件を最低目標とする。外部資金獲得については公募による研究費のみならず寄付金の獲得も視野に入れた活動も積極的に実施する。	0.20	現在進行中の科学研究費補助金（分担2件）に関連する国際連携や海外調査は出張期間を十分に確保できずに予定数をこなすことができなかった。しかし国際誌への投稿3件（うち2件は責任著者）、学部紀要1件を投稿済みであり満足できる内容であった。外部資金獲得については科学研究費補助金（継続）以外に新規の寄付金があり十分な額が得られた。
社会貢献	0.20	学外の委員会委員や論文査読を滞りなく務める。専門分野の特殊性から県内で人材が限られる分野の非常勤講師も務め地域教育にも一定の責任を果たす。また海外の大学から依頼される特別授業（講習）の講師を務める。なお今年度は全国規模の学会で大会長を務める。	0.25	ある学会の評議員に選出されたほか、3月初旬に全国学会の大会長を務める。人材が限られた分野の非常勤講師の依頼もあり地域教育にも一定の責任を果たすことができた。上述もしたが海外大学との連携活動はできずじまいで、また国際学会の査読員にも選出されたが多忙のため辞退したのが悔やまれる。
管理運営	0.05	担当する部局の委員会委員（1件）のほか、不定期に依頼される委員会委員（1件）を滞りなく務めるとともに、教授として教室運営にも責任を果たす。	0.05	学部の図書起用委員会の委員長として業務を滞りなく務めた。大学院新研究科の設置及び課程認定に向けた準備が年度後半からいっきに慌しくなったが、できる限り主任を補助して教授としての責任を果たした。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	増澤　拓也	所　属	教育学部　保健体育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学生が学習利用できる心理実験プログラムの開発 教員採用試験大作セミナー（水泳）の実施 認定試験問題の作成	0.25	古典的心理実験に使用される反応時間と鏡映描写のプログラムを作成した. 教員採用試験大作セミナー（水泳）を2回実施した. 認定試験問題の作成をおこなった.
研究	0.30	科研の共同研究者分担業務. 研究雑誌に2編以上投稿. 競争的研究資金を1件以上応募. 学会（研究会）発表を1回以上実施.	0.35	科研の共同研究者分担業務として質問調査の実施と分析をおこなった. 研究雑誌に2編投稿した. 競争的研究資金を2件応募した. 学会（研究会）発表を2回おこなった.
社会貢献	0.35	日本健康支援学会第21回大会の事務局長業務. バランス勉強会の企画・運営. 沖縄県マウンテンバイク競技会の運営補助. 沖縄県クライミング国体代表への指導.	0.35	日本健康支援学会第21回大会の運営委員長として，企画運営に携わっている. バランス勉強会を2回実施した. マウンテンバイク講習会を12回実施した. 沖縄県クライミング国体代表への指導をおこなった.
管理運営	0.05	教務委員業務.	0.05	教務委員およびグローバル支援機構の業務にあたった.
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	宮城政也	所　属	教育学部 教科教育専攻 保健体育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	学部:「生活科教育概論」「共通教育:スポーツ科学演習」「専門:球技系（卓球）」「専門:ベースボール型（ソフトボール）」「卒業研究Ⅰ Ⅱ」「学校保健」「メンタルマネジメント」「保健体育ゼミナール」について，それぞれの達成目標の具現化に取り組む。大学院:「学校保健学特論Ⅱ」「学校保健学特論演習Ⅱ」について達成目標の具現化に取り組む。学生の就職（教採），進学に関する計画的指導の実施	0.35	概ね達成。授業評価等を参照し，更なる授業の充実を図る
研究	0.35	論文2～3編（筆頭1，共同2）の執筆。,学会報告（日本健康教育学会，日本学校保健学会，ほか）4件程度（共同2件）を予定。	0.35	概ね達成。更なる研究活動の充実（科研費等外部資金獲得）
社会貢献	0.15	1.沖縄県健康沖縄21（第2次）「中間評価」分野別委員会,総括委員会委員。2.沖縄県スポーツ推進審議会審議員。3.沖縄県児童生徒の体力向上推進委員会委員長。4.沖縄県スポーツ医・科学委員会委員。5.沖縄県競技力向上対策委員会委員。6.教員免許更新講習。7.教員経験者研修等に対する積極的な貢献	0.15	概ね達成。
管理運営	0.15	○琉球大学 疫学研究倫理審査委員会 委員 ○琉球大学 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会　委員 ○教育学部,学生生活委員会 委員	0.15	概ね達成。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	笹澤　吉明	所　属	教育学部　保健体育学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	学部における「衛生・公衆衛生学」「体育経営管理学」「サッカー」「卒業研究」、大学院における「学校保健学特論」、共通教育における「サッカー実技」「フットサル」の全コマを遂行する。教員免許更新講習を開講する。学内の科研費申請書作成のアドバイザー。琉球大学サッカー部の監督として学生を指導する。国立台湾体育運動大学（趙学部長）とのサッカー国際交流。教員志望者への指導、大学院進学志望者への指導、一般企業志望者への指導を適宜行う。	0.30	学部・大学院の講義・実技を滞りなく遂行した。教員免許更新講習は「睡眠教育(選択必修2コマ）」「疫学（選択2コマ）」「サッカー実技（選択1コマ）」の計5コマを実施した。学内の科研申請のアドバイザーを務めた。琉大サッカー部の監督を務め指導した。国立台湾体育運動大学とのサッカーの国際交流はコロナウイルス問題で来年度に延期された。学生の進路指導を適宜行った（一般企業１名、非常勤教員１名、検疫官1名）。
研究	0.00	基盤研究C「グロースハック理論による親子の睡眠改善アプリケーションの開発及びその疫学的検証」に取り組む。基盤研究C「映像による授業分析」に取り組む。沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業「学力向上に向けた親子の睡眠改善アプリの開発」に申請。「嘉手納飛行場周辺騒音度調査」「航空機による低周波数成分を含む騒音の影響に係る評価検討業務」遂行（防衛省）。医歯薬出版の「衛生・公衆衛生学」の改訂。日本音響学会編 音響学講座を分担執筆。	0.30	基盤研究C「グロースハック理論による親子の睡眠改善（略）」の遂行及び学会発表。基盤研究C「映像による授業分析」の遂行及び学会発表。沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業に申請したが採択されず。「嘉手納飛行場周辺騒音度調査」「航空機による低周波数成分を含む騒音の影響に係る評価検討業務」（防衛省）、「欧州地域向けの環境騒音ガイドライン」に関する検討調査業務（環境省）遂行。日本睡眠環境学会に論文受理。医歯薬出版の「衛生・公衆衛生学」の改訂遂行。日本音響学会編音響学講座を分担執筆遂行。
社会貢献	0.00	防衛省請負業務の「嘉手納飛行場周辺騒音度調査」委員。「航空機による低周波数成分を含む騒音の影響に係る評価検討業務」委員。防衛省、国土交通省、環境省の学術アドバイザー。公開講座「琉大生がサッカーと勉強を教えます！」の代表講師。その他、県内外で「寝る子はでぃきやーないんどー」講演。アドバイザリー講師。	0.25	防衛省請負業務の「嘉手納飛行場周辺騒音度調査」委員、「航空機による低周波数成分を含む騒音の影響に係る評価検討業務」委員、「欧州地域向けの環境騒音ガイドラインに関する検討調査業務」委員等防衛省、国土交通省、環境省の学術アドバイザーを務めた。公開講座「琉大生がサッカーと勉強を教えます！」の代表講師遂行（年間30講座）。沖縄県教育委員会の眠育シンポジウムを2回開催（Qプラスで放映）。
管理運営	0.00	教育実習委員。全学の科研費申請書作成アドバイザー。	0.15	教育実習委員、保健体育専修3年次担任、全学の科研費申請書作成アドバイザーを滞りなく務めた。
	0.00		0.00	
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	柄木　良友	所　属	教育学部学部　理科教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	担当授業を行う。	0.50	担当授業を行う。
研究	0.40	琉球大理学部、東大物性研究所と共同研究を行う。	0.40	琉球大理学部、東大物性研究所と共同研究を行った。 日本物理学会秋季大会（岐阜大）で発表を行った。 米国物理学会 March Meeting 2020（Denver, Colorado）で発表予定
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.10	学生生活委員の職務を行う。	0.10	学生生活委員の職務を行なった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岩切　宏友	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	○新しい学習指導要領を踏まえ、アクティブラーニングを重視した物理学および自然科学系の講義を実践し、受講学生の教員としての実践力を育成に寄与する。 ○物理学実験の講義を通して，基礎的な物理の実験手法の確立や，コンピュータの活用方法，論理的な文章の書き方などを指導する。 ○卒業研究の指導により、自発的研究能力や科学的思考能力の育成を行う。	0.00	物理学に関する講義については，アクティブラーニングを重視することで十分な学習効果が得られた。また、プログラミング教育を取り入れた講義の改善も行い一定の効果を得られた。物理学実験については実験内容の改善を行った。3人の学部学生に対して卒業論文に関する指導を行い，科学的思考力や文章作成，プレゼンテーション技術の育成に成果があった。
研究	0.45	○未来のクリーンエネルギーである核融合炉に関する基礎研究を進展させ，学会および学術論文として発表する。 ○プログラミング教育に関する研究を進展させる。 ○VR教育等の新規的理科教育に関する研究を進展させる。	0.00	核融合炉についての基礎研究については着実な進展が見られ，10月の国際会議(ISFNT-14)で研究成果の報告を行った（発表は他機関の共同研究者が実施）。また，3月の日本金属学会全国大会や1月の研究集会等でも成果報告を行った。一方で、プログラミング教育・VR教育研究については特筆すべき成果を得られなかった。
社会貢献	0.03	○物理学に関する講演・出前授業などを行う。	0.00	本年度は物理学に関する講演や出前授業を行うことはできなかった。
管理運営	0.07	○理科教育専修4年次の指導教員および、安全衛生委員会委員としての業務を円滑に遂行する。	0.00	安全衛生委員会委員としての業務は今のところ円滑に遂行できたと考えている。また、理科教育専修4年次の指導教員および附属中共同研究委員としての業務についても今のところは円滑に遂行できている。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	照屋　俊明	所　属	教育学部　理科教育講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	化学の講義では昨年度とは異なる形の分子模型を用いて、有機化学の立体的な形の理解、反応性についての理解を深める。また学生実験では講義前に簡単な演示実験を行い、学生が実験を行う際の理解度を深めるよう努める。また研究室に配属された博士1年3名、学部生4名と密にディスカッションし、学生の希望、目標などを把握し本人の希望に沿った進路に進むことが出来るよう適時助言する。	0.25	化学の講義では新たな分子模型を用いて講義を行った。これまでに用いていた分子模型よりも使い勝手が良く、学生からも原子の位置などがより詳細に理解できるとの意見が多かった。また学生実験の際は簡単な演示実験を行う事で、学生の実験への理解を深めた。その結果、実験中によく質問があった実験操作に関する質問が少なくなり、実験により集中できる環境が提供できたと考えられる。また博士課程の学生3名、4年生4人の研究指導した。研究報告会を週1回行い、それぞれが本年度の課題を遂行した。
研究	0.55	沖縄県委託事業である「成長分野リーディングプロジェクト創出事業」において、研究統括として沖縄産生物資源の有用物質の探索を行う。	0.55	沖縄県委託事業である「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」、「成長分野リーディングプロジェクト創出事業」で研究統括として研究を遂行した。
社会貢献	0.10	沖縄産に自生する植物、海洋生物に含まれる薬理活性物質を明らかにすることで、未利用海洋資源の付加価値を高めることが出来ると考えられる。	0.10	北里大学生命研究所との共同研究により、数種類の沖縄産植物について、これまで報告されていない薬理活性を見出した。詳細な薬理活性の検討は今後行うが、得られた結果は沖縄産植物の付加価値を高める事が期待できる。また特許出願した製法で製造したシークワーサー由来のノビレチンを用いたサプリメントが販売された。この結果は北部振興の新たな産業に貢献できると考えられる。
管理運営	0.10	理科教育専修の主任としての職務、地域連携推進機構産学官連携部門の併任教員、琉球大学環境･施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員としての職務を遂行する。	0.10	理科教育専修主任としての教員採用人事業務、地域連携推進機構産学官連携部門の併任教員、琉球大学環境･施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員としての職務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	濱田　栄作	所　属	教育学部　理科教育教室	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	担当科目について，学生の到達度を高める授業の工夫や教材の開発を実施する。また，担当年次の学生や研究室に所属する学生に対して，学生生活及び学習・進路等の相談および助言を実施する。	0.40	学生の理解度および満足度を高めるために，教材の工夫や外部から講師を招き，学生が主体的に授業に取り組める授業づくりを心がけた。また，附属小との共同研究に加え，連携する県内の小・中学校理科教員と授業実践研究に取り組んだ。担当年次（1年生）の学生に対しては，履修及び学生生活指導を，研究室配属の学生（3・4年生）に対しては，研究のみでなく進路等の相談および助言を行った。また，学部の認定試験について作問を行った。
研究	0.40	研究代表者として採択中である科学研究費補助金（1件）及び助成金（2件）に関する研究を遂行する。また，新たな外部資金を獲得するために，これまでの研究成果をもとに新しい研究課題を創出する。	0.30	科研費（研究代表者1件）と，財団からの助成金（2件）を活用し，研究に取り組み，4件の学会発表を行った。また，高レベル放射性廃棄物の処分問題について，県内の中学校教員と連携し，新たなワークシート教材を開発した（3月の全国教員研修会（東京）で公表）。
社会貢献	0.10	アドバイザリースタッフ派遣事業による学校支援や，地域の各種団体からの要望に応える。	0.20	沖縄青少年科学作品展の審査委員を務めた。また，琉球大学公開講座（3件），教員免許状更新講習（1件），県立高校での講師（1件）を務めた。沖縄エネルギー教育地域会議（資源エネルギー庁）の委員として，県内のエネルギー教育の推進に努め，中高生及び大学生，教員を対象にした沖縄エネルギー環境教育セミナー，高校生を対象にした沖縄未来社会創生シンポジウム（共催：沖縄県教育委員会）の事務局を務めた。
管理運営	0.10	教務委員として，学部教育の改善に取り組むとともに，併任する教職センターにおいても，教職課程の改善に取り組む。	0.10	学部の教務委員会委員に加え，全学の教職センターの併任教員，教職教科検討委員会委員，研究基盤センターRI施設放射線安全委員会委員，プログラミング教育のための科目開設に向けたWGにおいて，カリキュラムや教職に関する改善等に取り組んだ。また，人文社会科学系新研究科検討拡大WGに人間形成学プログラムの世話人として，新研究科の設置に向けた業務に取り組んだ。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	富永　篤	所　属	教育学部　理科教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	講義、実験では、学生の学習意欲を高められるような内容を目指し、そのレベルも一定水準以上のものになるように努力する。卒業後、必要とされるスキルや能力を身につけられるような講義、実習を行う。考える力を養う。研究室の学生の就職、進学支援の相談にのり、目標実現のために可能な限り協力する。	0.30	講義、学生実験では、生物学の内容を出来るだけ身近な話題に関連づけて話題提供するようにした。また、学校現場で役立つ内容を盛り込むようにし、体験型の実践（動植物の観察）も取り入れた。さらに対話型の講義を意識して、大人数の講義でも、出来るだけ学生に意見を求めるようにして進めた。学生の講義への姿勢はおおむね良好に感じられた。研究室の学生にも研究内容の相談、進路相談についてできる限り時間をかけた。
研究	0.40	両生類の系統分類、系統地理、生態に関する研究について国際誌2報以上の投稿を目標とし、年度内の受理を目指し、学会で発表を行う。採択中及び新年度から採択された科研費および外部資金の研究課題の進捗と成果発表を心がける。次年度の研究推進のため科研費に応募する。また所属学会の各種担当（英文誌編集、庶務、運営委員、評議員）の仕事が滞ることのないようにこなしていく。	0.40	今年度は、専門分野の研究内容に関して、国際誌4本に論文が掲載され、一部は新聞等で研究内容が紹介された。このうち2編を主著者として執筆した。和文での執筆は2件（査読無し）だった。また、国際学会と国内学会のシンポジウムでそれぞれ一回ずつ講演を行った。これらを含む学会発表は、10件であった。新年度は科研費（分担）2件、その他の外部資金（サブテーマリーダー）が新たに採択され、他の継続の2件とともに研究を進めた。また、これまでの沖縄の研究内容に関して沖縄研究奨励賞をいただいた。
社会貢献	0.20	沖縄県の外来種対策にかかる委員会の委員として社会貢献を目指す。沖縄県や環境省の希少種保全、外来種対策に貢献する。小学校、中学校、高等学校との連携を積極的に進める。	0.20	沖縄県の自然保護に関する2つの検討委員会の委員を担当し、国の事業についても助言を行った。県外の一般市民向けの研究内容に関する公開講座、県内の研究会での講演を引き受けた。琉球大学グローバルサイエンスキャンパスへの協力として、高校生向けの生物学の講義を行った。琉球新報の子ども向けの記事（りゅうPON）の監修と写真提供を担当した。
管理運営	0.10	担当する全学の委員会、学部の委員会の会議にできるだけ出席し、委員会の運営のために尽力する。	0.10	担当する学部の教育実習委員、同委員会の教職体験部会の副部会長として、職責を果たした。全学の動物実験委員会の委員も例年通り担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。